

第39回

浦添市学校保健研究大会

心豊かにたくましく生きる幼児・児童・生徒の育成

～学校保健・安全・給食指導等の実践を通して～

期日：平成31年2月7日(木)

会場：浦添市中央公民館 大ホール

主催：浦添市学校保健会

共催：浦添市教育委員会 浦添市PTA連合会

目 次

1	あいさつ	浦添市学校保健会会長	金城 聡	
2	あいさつ	浦添市教育委員会教育長	嵩元 盛兼	
3	第39回浦添市学校保健研究大会開催要項			1
4	講演	又吉 弥篤		3
5	実践報告			
	(1) 保健部会	(神森中学校) 上原 真美		4
		(港川中学校) 多良間 しおり		
	(2) 安全部会	(浦添小学校) 與那覇 瞬		17
	(3) 給食部会	(宮城小学校) 大城 茜		28
6	県外研修報告(紙面)	浦添市学校保健会保健部会部長	上原 真美	42
7	資料			
	○ 平成30年度浦添市学校保健会役員及び理事一覧表			48
	○ 研究グループローテーション表及び研究大会における運営係について			49
	○ 平成30年度研究部会一覧表(名簿)			50
	○ 浦添市学校保健功労者(個人・団体)一覧			51
	○ 浦添市学校保健研究大会 講演一覧			53
	○ 浦添市学校保健会会則			55



あいさつ

浦添市学校保健会
会長 金城 聡

第39回浦添市学校保健研究大会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

本日、本研究大会へご参加いただきましたご来賓の皆様、学校保健関係者の皆様、PTA関係者の皆様方には心よりお礼申し上げます。有り難うございます。

本研究大会は今年で39年目を迎え、児童生徒の健康な体、体力の保持増進、防災防犯に係る安心安全な学校づくり、食育に係るアレルギー対策等、学校保健全般に関わる課題の改善に向けて、研究を推進してきました。これまでに本研究会を継承し、発展させてきた諸先輩方のご尽力には、心より敬意を表します。

さて現在は、社会環境の急激な変化に伴い様々な社会問題が発生しています。少子高齢化による社会保障や労働力不足の問題、長時間労働や時間外勤務の解消を図る働き方改革等、解決すべき問題は多岐にわたります。このような社会問題を背景として、学校教育においても不登校や自殺等の原因となるいじめの問題、児童生徒の7人に1人が貧困家庭の中、生活や教育の保障の問題等を抱えています。

本研究会では学校教育の様々な課題の中で、健康で安全な生活を自ら実践する幼児児童生徒の育成を目的に、研究主題を「心豊かにたくましく生きる幼児・児童・生徒の育成～学校保健・安全・給食指導の実践を通して～」として研究を深めてきました。研究部会の皆様には学校現場における多忙な日常の業務の中、各研究部のテーマに沿って、熱心に研究に取り組んでいただきました。心より感謝申し上げます。

本日の実践報告会では、研究授業や研究調査等の内容について発表していただきましたが、その成果については今後の保健・安全・給食指導の糧になることを大いに期待しております。そして今後も幼児児童生徒が健康で安全に健やかに成長することができるように、学校と家庭、地域社会がお互いに連携協力して、学校保健全般に関わる課題解決に取り組めるよう、何卒ご理解とご協力の程お願いします。

実践報告会後の講演会においては、性に関するLGBTの問題について又吉弥篤氏を講師に迎え、「自分らしく生きる大切さ～性同一性障害から学んだこと～」を演題に人権に関わる重要な問題を学び、理解を深める機会を得ることとなりました。講演会を通して、今後学校教育や地域社会において、LGBTで悩んでいる方々への理解を深め、差別や偏見のない社会の実現に向けて示唆をいただけるものと期待しております。

結びに、本市学校保健会の運営や活動、本研究大会の開催に当たり、ご指導ご支援を賜りました浦添市教育委員会をはじめ、浦添市医師会、南部地区歯科医師会、学校薬剤師会那覇浦添支部、浦添市PTA連合会、各学校および関係機関各位に厚くお礼申し上げます、あいさつといたします。

平成31年2月7日



あいさつ

浦添市教育委員会
教育長 嵩元 盛兼

第39回浦添市学校保健研究大会が開催されるにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日、お集まりの皆様方には、平素より学校保健・学校安全・学校給食など、健康教育の各分野の充実・発展に多大なるご尽力を賜り心より感謝申し上げます。

今年度は4月から11月の8ヶ月間で市内の小中学校から寄せられた不審者等による注意喚起を必要とする情報が40件以上寄せられております。また「むし歯」ばかりでなく口腔崩壊の児童等の新聞報道、台風接近による被害、ネット依存や、ゲーム依存による生活リズムの乱れ、不登校、こどもたちの健康や安全を守るため今、私たちが取り組むべき課題は、多岐多様な内容となっております。その対策と共に私たちが関わっている子どもたちが、どのように行動し身を守るのか、発達段階に応じて直面した危険から自ら考えて主体的に行動し、身を守る態度をどのように育成して行くのかという視点が今まさに求められております。

今後、子どもたちの「生きる力」を育むためには、まさに学校、家庭、地域社会や関係機関が一丸となって取り組んでいかなければなりません。

このような折りに、日頃からそれぞれの立場で実践をされておられる方々が一堂に会し、「心豊かにたくましく生きる幼児・児童・生徒の育成」をテーマに本市の健康教育推進の展望と課題と決意を共有されることは誠に意義深く、大会の成果に大きな期待を寄せるものであります。

本日は保健部会、安全部会、給食部会の3部会による実践発表も予定されており、それぞれの発表が、今後の教育実践に生かされるとともに、様々な問題の解決の糸口となり、各学校や家庭等における健康教育がますます充実・発展するものと大きな期待を寄せているところであります。

また、本市は平成29年1月1日に「浦添市レインボー都市宣言」行い、性の多様性を認め合うまちづくりに取り組んでいるところであります。本日は、又吉弥篤氏を講師にお招きし、「自分らしく生きる大切さ 性同一性障害から学んだこと」の演題でご講演を拝聴できますことを大変うれしく存じます。

結びに、本研究大会の開催に向けご尽力を賜りました浦添市学校保健会の関係者の皆様方に対し心から感謝を申し上げますとともに、第39回浦添市学校保健研究大会のご成功、並びに関係各位のご健康とご活躍を祈念申し上げ、ごあいさつといたします。

平成31年2月7日

第39回浦添市学校保健研究大会開催要項

1 趣 旨

近年における社会環境の急激な変化は、子どもたちの心身の健康に様々な影響を与えている。このような中、浦添市の学校保健関係者が参集し、学校・家庭・地域社会の連携のもと、保健・安全・給食指導等のあり方やその実践活動上の諸問題について研究協議を行い、健康で安全な生活を自ら実践する幼児児童生徒の育成に資することを目的とする。

2 主 題

心豊かにたくましく生きる幼児・児童・生徒の育成
～学校保健・安全・給食指導等の実践を通して～

3 主 催

浦添市学校保健会

4 共 催

浦添市教育委員会 浦添市PTA連合会

5 日 時

平成31年2月7日（木） 14:30～16:45

6 場 所

浦添市中央公民館 3階 大ホール（浦添市安波茶一丁目1番2号）

7 内 容

- (1) 開会行事
- (2) 実践発表（保健部会、安全部会、給食部会）
- (3) 講 演

演 題 「自分らしく生きる大切さ
～性同一性障害から学んだこと～」

講 師 又吉 弥篤

8 日程

14:15		受付
14:30 (10分)	開 会 行 事	司会 浦添市学校保健会副会長 安慶田 忠 (浦添共同調理場 副所長) 1. 開会のことば 浦添市学校保健会副会長 荻堂 盛嗣 (浦添市PTA連合会会長) 2. 会長あいさつ 浦添市学校保健会会長 金城 聡 (神森小学校校長) 3. 教育長あいさつ 浦添市教育委員会教育長 嵩元 盛兼
14:40 (10分)	実 践 発 表	4. 実践発表 <保健部会> 「自分らしさと多様性を認める心を育む ～LGBTを通して考える～」 発表者 神森中学校 養護教諭 上原 真美 港川中学校 養護教諭 多良間 しおり
(10分)		<安全部会> 「地震・津波に対する意識の向上 ～地震・津波の避難訓練の実践を通して～」 発表者 浦添小学校 教諭 與那覇 瞬
(10分)		<給食部会> 「食事のマナーを通して、食に関する関心を高める指導」 発表者 宮城小学校 教諭 大城 茜
15:10 (20分)	講 評	5. 講評 浦添市教育委員会 学校教育課指導主事 内田 篤
15:30 (60分)	講 演	6. 講演 (講師紹介：司会) 演題 「自分らしく生きる大切さ ～性同一性障害から学んだこと～」 講師 又吉 弥篤
(10分)		7. 質疑・応答
16:40 (5分)	閉 会	8. 閉会のことば 浦添市学校保健会副会長 笠原 大吾 (沖縄県薬剤師会)

9 参加対象者

- (1) 浦添市立小中学校長又は教頭、保健主事、安全主任、給食主任、養護教諭
- (2) 浦添市学校保健会理事
- (3) 浦添市教育委員会の学校保健安全担当者
- (4) 共同調理場所長又は副所長、栄養教諭、学校栄養職員
- (5) 学校医、学校歯科医、学校薬剤師
- (6) 学校保健会事務局等の学校保健・学校安全・学校給食関係機関の職員
- (7) PTA会員、関係者

講演

演題

「自分らしく生きる大切さ
～性同一性障害から学んだこと～」

講師

又吉 弥篤 氏



〈 講師紹介 〉

又吉 弥篤 (またよし みくと)

性同一性障害当事者

幼少期より自身の性別に違和感を持ち続け、平成 27 年 1 月、女性から男性へと戸籍の変更を行い、現在は戸籍上「男性」として生活を送る。

- 1986 年 又吉家の「長女」として産まれる。
- 1992 年 幼稚園へ入園。初恋が女性の先生であり、自身の性別に違和感を持ち始める。
- 1993 年 小学校へ入学。毎日男友達とサッカーに明け暮れる日々。
その後、中学、高校と進学し、バスケット部に入部。
- 2005 年 救急救命士の資格取得の為、専門学校へ入学。
- 2008 年 消防官として社会人 1 年目。性別に対しての苦しさが増すばかりの日々。
- 2013 年 精神科及び心療内科を受診し、【性同一性障害】と診断。
- 2014 年 戸籍変更の為、ホルモン療法及び性適合手術を受ける。
- 2015 年 戸籍上「女性」から「男性」へと性別を変更する。

現在は自身の経験、体験をもとに当事者家族、教育現場にて性同一性障害について講演活動を行う。

實踐報告



保健部会

研究テーマ

「自分らしさと多様性を認める心を育む」
～LGBTを通して考える～

発表者

神森中学校	養護教諭	上原 真美
港川中学校	養護教諭	多良間 しおり

研究部員（中学校グループ）

神森中学校	養護教諭	上原 真美（研究部長）・比嘉 成奈
浦添中学校	養護教諭	大仲 逸子
浦添中学校	教 諭	高橋 梓
仲西中学校	養護教諭	糸数 貞江・川平 由樹乃
仲西中学校	教 諭	新垣 優
港川中学校	養護教諭	多良間 しおり
浦西中学校	養護教諭	池原 千賀子
浦西中学校	教 諭	親泊 道子

保健部会（保健主事・養護教諭）

1 研究テーマ

自分らしさと多様性を認める心を育む ～LGBTを通して考える～

2 テーマ設定の理由

浦添市は平成29年1月1日に、すべての人の性の多様性を認め合い、差別や偏見をなくし、誰もがティーン（太陽）のように輝けるよう住みやすいまちを目指して、「レインボー都市うらそえ宣言～性の多様性を認め合うまち～」を宣言している。しかし、浦添市内の学校では、性教育が保健指導において計画的に実施されているが、LGBTに関する教育は、講演会の中で少し触れる程度であった。

心身の成長に伴う不安定さや、身体と性に違和感を持ち、苦痛や悩みを抱える子どもが少なくない。セクシュアリティ（〈こころの性〉×〈からだの性〉×〈好きになる性〉×〈表現する性〉）は性や恋愛の話だけでなく、進路・就職・パートナーシップなどの人生にも深くかかわる。LGBTの正しい知識や情報を得る機会がないことから、将来への不安・人間関係の障壁・自尊感情の低下などに繋がっていくことが懸念される。また、自他を認められないことが、いじめなどといった人間関係のトラブルの一因となっていることも否定できない。

そこで、今回はLGBTを通して、自分らしさと多様性を認め合える支持的風土作りを目指し、本テーマを設定した。

3 研究経過

月 日	場所	研究内容
7月14日	浦添市役所	○テーマ検討
7月26日	神森中学校	○テーマ決定 ○研究内容の検討及び決定
8月6日	浦西中学校	○自己研修、情報交換
8月15日	仲西中学校	○市内養護教諭向けのLGBTの講演会実施
9月12日	神森中学校	○LGBT指導案の考案 ○掲示物作成
10月18日	港川中学校	○講演後の情報交換 ○掲示物作成
11月13日	浦添中学校	○報告書作成
12月4日	神森中学校	○報告書、パワーポイント作成 ○まとめ
1月30日	昭和薬科中学校	○反省、振り返り

4 研究内容

(1) LGBTについての研修

①自己研修

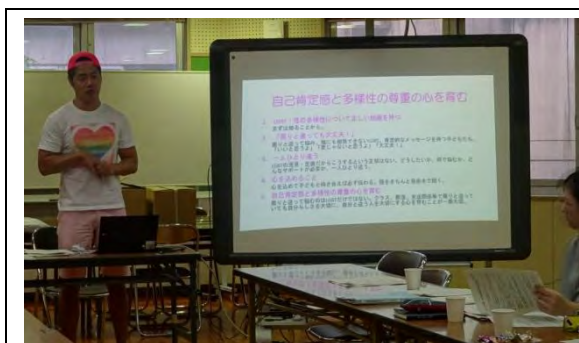
LGBTに関連した書籍等を読み自己研修に努め、LGBTについての知識や理解を深め、情報交換をした。(資料1参照)

②市内養護教諭のLGBT研修会実施

「レインボーハートプロジェクト okinawa」代表のLGBT当事者である竹内清文さんを講師としてお招きし、LGBTに関する講演会を実施した。その後、各学校で課題になっていることなどについて意見交換をした。

【講演会・意見交流会の内容】

- LGBT・性的マイノリティについて
- 当事者の現状（自殺未遂率、いじめの割合の高さ等）について
- 性の多様性と4つの指標について
- LGBTの兆候がある生徒への対応
- 修学旅行での対応など学校でやってほしいこと など



講演会の様子



意見交流会の様子

(2) 生徒向けLGBT講演会と授業実践

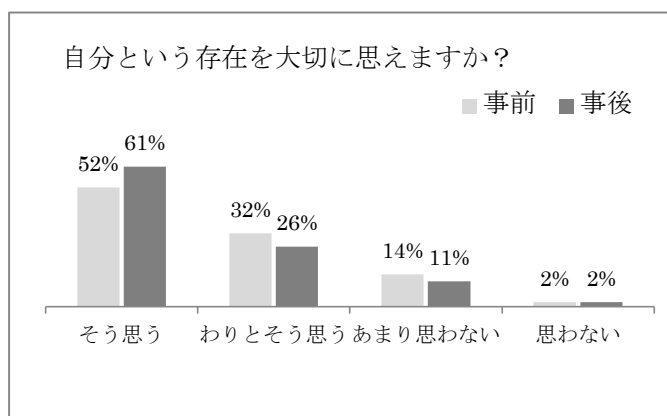
①LGBT講演会の実施

神森中学校（3年生 249人）、港川中学校（2年生 260人、3年 184人）、浦西中学校（2年生男子 76人）を対象に竹内清文さんの講演会を実施した。

ア 講演会の様子

学校名	講演会の様子	講演会後の生徒の感想
神森		<p>○LGBTの人に対して差別せず、自信をつけてあげられるような人になりたいと思った。「男らしく」「女らしく」ではなく、「自分らしく」が大切だと思った。</p> <p>○ありのまものが一番大切だと思った。</p> <p>○「周りとは違うのは当たり前」「自分らしく」が大切だと学び、今後の人生に繋げていきたいと感じた。</p>
港川		<p>○LGBTの正しい知識を知ることができ、もっと詳しく知りたいと思った。</p> <p>○周りになじむ生き方ではなく、自分らしい生き方をすることが大切だとわかった。</p> <p>○友だちにLGBTの人がいたら、素直に受け止めその人の個性だと思って生活したい。</p>
浦西		<p>○自分らしくという言葉が印象に残った。最近、自分を見失っているので焦らずゆっくり「自分らしさ」を探して行こうと思う。</p> <p>○みんなそれぞれ個性があるから、その個性を否定するのではなく、ちゃんと認めようと思う。LGBTについて知る機会があってよかった。</p>

イ 講演会事前・事後アンケートの結果



○講演前に比べ講演会実施後は、「自分という存在を大切に思えますか？」の質問に対して、「そう思う」と答えた生徒が9%増加し、「わりとそう思う」「あまり思わない」と答えた生徒が合わせて9%減少した。

② LGBT授業実践

ア 指導案

授業案作成は、性的マイノリティーに関する講演活動を行う団体「レインボーハートプロジェクト okinawa」代表 竹内清文さんの協力の下で作成した。授業後も振り返りを行い、授業案の見直しを行った。

対象	中学生
教材名	自分らしさと多様性を認める心～LGBTを通して考える～
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・性の多様性について知る。 ・自分らしく生きるための方法を考える。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・性の多様性について知ることができる。 ・自分らしく生きるための方法を考えることができる。

授業の流れ、主な学習内容と発問	指導上の留意点	準備する物
<p>導入（5分）</p> <p>①イラスト・写真の提示</p> <p>発問「この動物の性別は何でしょうか？」</p> <p>「どうしてその性別だと思う？」</p> <p>○授業のめあてを確認。</p> <p>展開①（15分）</p> <p>LGBTについて、レインボーフラッグ、性の4つとらえ方について説明。</p> <p>発問「もし、自分がLGBTなどの少数派だったら人に言えますか？」</p> <p>展開②（10分）</p> <p>日本のLGBTの現状について説明。当事者の悩み、自殺率等を掲示し、生きづらさがあることを伝える。</p> <p>展開③（15分）</p> <p>発問1「どうすれば、LGBTの人が生きやすくなると思いますか？」</p> <p>発問2「自分らしく生きるための方法は？」</p> <p>まとめ（5分）</p> <p>○周りとは違って大丈夫。</p> <p>○人を大切にするためには～</p>	<p>導入①</p> <p>生徒達の興味を引く。発問をし、考えさせる。実際の人間の写真を出し、職業や見た目だけで性別を判断していることに気づかせる。</p> <p>展開①</p> <p>レインボーフラッグを見せ、性は多様であることを伝える。性の4つのとらえ方は事例をあげて説明。</p> <p>※担任や身近な人を挙げ、性の4つの指標を確認することで興味を引く。</p> <p>展開②③</p> <p>LGBTの当事者の現状から、どうしたら自分らしく生きていけるかを考えさせる。他人事ではなく、自分事にひきつけて考えられるようにする。</p> <p>※自分はどうしたら良いのかにも焦点を当てさせる。</p> <p>※グループワークや発表を実施し、全体で共有。（学級の実態に応じる。）</p> <p>まとめ</p> <p>性の多様性から、一人一人性格も個性も違うことに触れ、自分らしく生きるために、今日から自分ができることをやってみようと呼びかける。</p>	<p>PC、電子黒板</p> <p>レインボーフラッグ</p> <p>発表用ホワイトボードなど</p>

イ 学級指導の様子



担任と養護教諭のT・Tにて授業を実施。発言も活発で、楽しそうな様子。



養護教諭からLGBTの方々の現状について説明。真剣に耳を傾けている様子。

ワーク一部 自分らしく生きるための方法は？

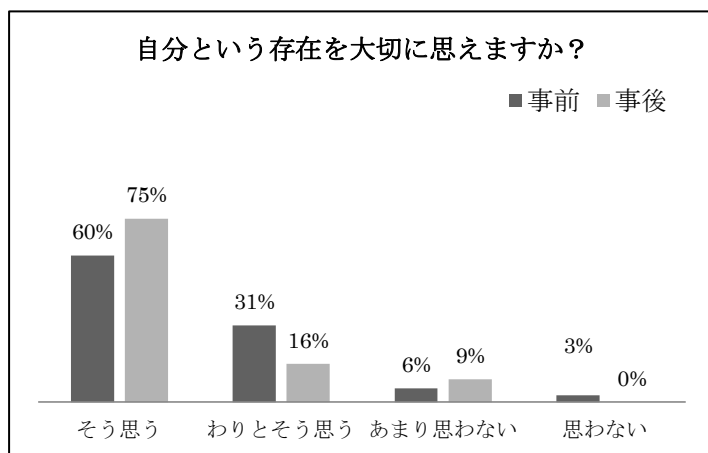
- 自分が本当にやりたい事を思いっきりやる
- 大人や周りの人に合わせず、自分の意思をハッキリ持つ。おねえされない
- 何事にも挑戦して、自分にある、無中に存在の現を見つける
- 自分で人と比べず、自分自身で得意、好きな事を伸ばす

自分という個性や存在を認めてもらうためには、
自分から人の考えや個性、存在を認め、受け入れる。

ウ 学級指導後の生徒の感想

- ウケ狙いで「オネエ」と言うこともあった。相手の気持ちを考えて発言しようと思った。
- 一人一人の個性を大切にしたい。
- 無理に合わせないで、周りの目を気にせず、自分らしく生きるのがいいと思った。
- この世の中には様々な人がいて、一人一人違う生き方、個性があることが分かった。
- もっと自分らしく生きていくための方法なども考えていきたい。

エ 学級指導事前・事後アンケートの結果


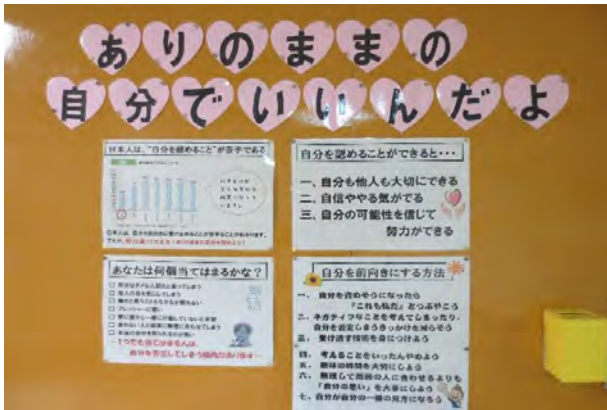



○学級指導前に比べ学級指導後は、「自分という存在を大切に思えますか？」の質問に対して、「そう思う」と答えた生徒が15%増加し、「わりとそう思う」と答えた生徒が15%減少した。「あまり思わない」と答えた生徒が3%増加し、「思わない」と答えた生徒が3%減少した。

(3) 啓発活動

① 掲示物

港川中学校、仲西中学校、昭和薬科中学校は、本テーマに合わせた掲示物を作成し、掲示した。

	掲示物と工夫した点	掲示後の周りからの感想
港川	 <p>○性の4つの指標の説明を中心に性のあり方にもいろいろあり、人によって様々であるということを知るように工夫した。</p>	<p>生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ○性も一人ひとりみんな違うんだと思った。 ○性にもいろんな種類があることがわかった。 ○レインボーフラッグを教室にも飾りたい。
仲西	 <p>○自分らしさを肯定的に受け止められる内容にし、できないことで否定するのではなく、できることに目を向けさせる工夫をした。</p>	<p>生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分に自信がないのもっと自信をもってありのままにいたいと思った。 ○勇気を出して今やれる事を全部やっておく。 ○夢を持とうと思った。
昭和薬科	 <p>○LGBTとは何か、性の4つの指標について伝え、LGBTに関連するクイズを入れることで関心を持ってもらえるように工夫した。</p>	<p>生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「LGBTで何？聞いたことある？」「聞いたことないの？私はあるよ！」という会話、Lは何？Gは？Bは？Tは？と説明文を一生懸命読む姿がみられた。 <p>教職員の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校でどんな配慮ができるか考えていかないといけないね等、掲示板の前で足を止める職員が増え、LGBTに関して話す機会が増えた。

② 図書館との連携



- ・各校図書司書と連携し、LGBTに関する書籍の購入をした。また、図書館にLGBTに関するコーナーを設置し、レインボーフラッグやLGBTに関するポスターを掲示する等、より多くの生徒たちへ肯定的なメッセージを届けられるよう工夫した。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・養護教諭が自己研修することにより、LGBTに関して正しい知識を深めることができた。またそれぞれが読んだ書籍を一覧にしてまとめることにより、情報共有し、今後も活用することができる。
- ・養護教諭の研修会や生徒向けの講演会、LGBT指導案を作成する際に、「レインボーハートプロジェクト okinawa」代表のLGBT当事者である竹内清文さんと連携することができた。
- ・「自分らしさと多様性を認める心を育む～LGBTを通して考える～」の指導案を作成し、「レインボーハートプロジェクト okinawa」のホームページに載せることで、今後多くの学校で活用できるようにした。
- ・LGBTの講演会や学級指導を通して、性の多様性を学ぶことで、自分らしさと多様性を認め合う心の育成に繋がった。
- ・テーマに繋がる掲示物を作成、掲示し、啓発することができた。また、それぞれの掲示物を地区養護教諭の中で情報共有することができた。

- ・図書館に、LGBT 関連図書コーナーを設置することで、より多くの相談できない生徒への肯定的メッセージを送る一助となった。

(2) 課題

- ・継続した取組になるよう、今後の年間計画に反映していきたい。
- ・今後は、更に教職員への意識向上・知識理解を深める手立てを考えていきたい。


6 参考文献

- ・認定 NPO 法人 ReBit LGBT もありのままでオトナになれる社会へ “中学校向け「Ally Teacher’ s Tool Kit」”
- ・レインボーなは 性の多様性を尊重するまちづくり 小冊子
- ・事業者：プラウド岡山 事業協働課：岡山市教育委員会事務局指導課 「主に岡山県内の性的マイノリティを対象とした学校生活に関するアンケート調査報告書—岡山市市民協働推進ニーズ調査事業—」
- ・L I X I L、特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ、2015 調査
- ・宝塚大学看護学部日高研究室 (2017) : 「LGBT 当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」」
- ・世田谷区生活文化部人権・男女共同参画担当課 (平成 28 年) 「平成 28 年性的マイノリティ支援のための暮らしと意識に関する実態調査」
- ・いろいろな性ってなんだろう?(いろいろな性、いろいろな生きかた) ポプラ社 監修渡辺 大輔
- ・「世界一わかりやすい! 自己肯定感を高める方法&厳選ワーク集」
サイトウユウスケHP URL <https://tensai-lab.net/self-esteem/>
- ・よくわかるLGBT多様な「性」を理解しよう 監修 藤井ひろみ PHP
- ・レインボーハートプロジェクト okinawa 作成資料

【教員・保護者向け】

	書名	著者／発行元	紹介文
1	子どもの性同一性障害に 向き合う 	西野 明樹 ／日東書院本 社	子どもの言動に性別の不一致を感じたとき、ご自身や身近な子どもが性別違和感を抱いているとき、親と先生ができることとは？ 著者の西野氏は性同一性障害の当事者。当事者の思いに寄り添い、向き合うことのできる一冊。
2	ゼロから知る「LGBT」 	「子どもと健康」編集 ／労働教育センター	「LGBTs 支援の最前線に立つ教員に求められる役割」「LGBT は健康教育の1コマ」「人権教育として保健師といっしょに」他、たくさんの特集が組み読み応えのある1冊。
3	先生と親のための LGBT ガイド 	遠藤 まめた ／合同出版	「LGBT」ってホントにクラスに1人いるの？LGBT の子にどんなアドバイスを送ればいいのか？一人ひとり性は違っていい。子どもの安心のために、親・先生が知っておきたい、実践したいこと。
4	学校・病院で必ず役立つ LGBT サポートブック 	はた ちさこ、 藤井ひろみ、 桂木祥子 ／保育社	LGBT の基礎知識。養護教諭が知っておくべき知識。自分が LGBT だと自覚するのは何歳ごろか？LGBT の生徒に特有の悩みとはどんなもの？どのような行動やサインをキャッチすべきか？など。学校教育関係者と医療従事者にとって欠かせない情報を凝縮した一冊。
5	よくわかる LGBT 多様な「性」を理解しよう 	藤井ひろみ [監修] ／PHP 研究 所	「LGBT って何?」「もしも自分や友だちが LGBT だったら?」LGBT に対する日本の取り組み・世界の取り組みについて等紹介されている。多様な性への理解を深められる一冊。

6	<p>ゲイのボクから伝えたい「好き」の？がわかる本</p> 	<p>石川 大我 ／株式会社太郎次郎社エディタス</p>	<p>「ゲイ、レズビアン？性同一性障がい？それって、どう違うの？」「聞きたいことはたくさんあるけれど、だれに聞けばいいの？」など疑問を解消するヒントをコンパクトにまとめて伝えている一冊。もやもやスッキリ LGBT クイズ付き。</p>
7	<p>性別に違和感がある子どもたち トランスジェンダー・SOGI・性の多様性</p> 	<p>康 純 ／合同出版</p>	<p>性別違和感をもつ子どもたちを大人はどのように受け入れていけばいいのか。性別違和の症状や特徴、疫学、原因などを解説。子どもの性別違和を理解し、そのこどもの健康な発達のために必要なことを考える一冊。全国のジェンダークリニック一覧も掲載。</p>
8	<p>学びのガイド ジェンダー・フリーの絵本⑥</p> 	<p>田代 美江子 ／大月書店</p>	<p>自分らしく生きることを考える絵本第6弾。もっと調べ、学びたい人のために、各巻の解説と資料・参考になる本を掲載する。また、先生のために、このシリーズを使った授業実践を小学校・中学校ともに紹介。用語解説、索引つき。</p>
9	<p>13歳から知っておきたいLGBT+</p> 	<p>アシュリー・マーデル 須川綾子[訳] ／ダイヤモンド社</p>	<p>自分の居場所を探す人、誰かの居場所をつくりたい人へ。性とジェンダーの多様性について学ぶことに興味のある、あらゆる人のためのガイド。約40名のLGBT+のインタビューも収録されている一冊。</p>
10	<p>LGBTQを知っていますか？</p> 	<p>日高庸晴、星野慎二 ／株式会社少年写真新聞</p>	<p>思春期の年代のセクシュアルマイノリティについて解説するとともに、学校現場に望まれる対応についても紹介した生徒も教師も読める一冊。</p>

11	LGBTってなんだろう？ からだの性・こころの性・好きになる性 	薬師実芳 笹原千奈未 古堂達也 小川奈津己 ／合同出版	「スカートなん着られない！」 「男の子が気になるのはなぜ？」 「ありのままの私じゃいけないの？」 20人に1人いるといわれるLGBT。 子どもたちに寄り添うための本。
----	---	---	---

【生徒向け】

	書名	著者／発行元	紹介文
1	いろいろななかぞくのほん 	メアリ・ホフマン ／少年写真新聞社	かぞくはいろいろ。人数、性別、暮らし方も人それぞれ。どんな家族でも家族は家族。きみのかぞくはどんなかぞく？多様な家族の形を紹介する絵本。
2	王さまと王さま 	リンダ・ハー ン、スター ン・ナイラン ド ／ポット出版	お姫さまと王子さまが結ばれるだけでなく、王子さまと王子さまが結ばれるお話があつていいー。オランダで生まれ、世界各国で翻訳されているLGBTをテーマにした絵本。
3	タンタンゴはパパふたり 	ジャスティン・リチャードソン&ピーター・パーネル ／ポット出版	動物園にはいろんな家族がいます。でも、ペンギンのタンゴの一家はそのどれともちがっていました。セントラル・パーク動物園で本当にあつたペンギンの家族のお話。
4	わたしはあかねこ 	サトシン ／文溪堂	両親、兄弟と全然似ていないあかねこ。あかねこはこの色きれいでかわいくってすきなのに…。あかねこがとった行動は？ そのままのじぶんがいい、あなたらしくいていいというメッセージが伝わる絵本。

5	<p>くまのトーマスはおんなのこ</p> 	<p>ジェシカ・ウォルトン ／ポット出版 プラス</p>	<p>友だちが男の子から女の子になったら、きみはどうする？「大事なのはきみがぼくの友だちだってことさ」ジェンダーと友情についてのやさしいお話。トランスジェンダーの父をもつ娘が、自分の息子に読み聞かせるためにつくった絵本。</p>
6	<p>IT 's Okay to Be Different ええやん そのままで</p> 	<p>トッド・パール ／解放出版社</p>	<p>「ええやんそのまま」「あんたはあんた」と、いろんな場面でリズムカルに語りかける絵本。多様な“わたし”を楽しみながら受け入れ、多様な他者も認められるようになる。シンプルなタッチ、カラフルな色遣いで人気があるトッド・パールの絵本。</p>
7	<p>レッド あかくてあおいクレヨンのはなし</p> 	<p>マイケル・ホール ／子どもの未来社</p>	<p>本書はアメリカで数々の賞を受賞。LGBT の青少年向け推薦図書にも選ばれました。本当は青いクレヨンなのに赤いラベルをはられた「レッド」。多様性をクレヨンの色で表現するアイデアが抜群で年齢を超えて理解され、自分自身を発見することがいかに大切かを話し合うきっかけとなる絵本。</p>
8	<p>LGBT なんでも聞いてみよう 中・高生が知りたいホントのところ</p> 	<p>QWRCC、徳永桂子 ／子どもの未来社</p>	<p>中・高生から実際にでた質問に答えるQ&A形式。比較的内容も分かりやすくなっており、単純なQ&A方式だけではなく、コラムとしてセクシュアリティやジェンダーに対しての説明もあります。</p>
9	<p>「ふつう」ってなんだ？</p> 	<p>殿ヶ谷 美由記、ReBit ／学研プラス</p>	<p>性について悩んでいる人だけでなく、友だち・周りの大人も知っておきたい「LGBT」に関する疑問や不安にこたえる内容。各章の導入部はカラーマンガになっていて綺麗な絵柄でとても読みやすくなっています。</p>

安全部会

研究テーマ

「地震・津波に対する意識の向上」
～地震・津波の避難訓練の実践を通して～

発表者

浦添小学校 教諭 與那覇 瞬

研究部員（小学校Aグループ）

沢岬小学校 教諭 下地 美佳（研究部長）

浦添小学校 教諭 與那覇 瞬

仲西小学校 教諭 上江洲 秀美

神森小学校 教諭 又吉 さやか

牧港小学校 教諭 玉城 貴子

当山小学校 教諭 上間 美由紀

安全部会

1 研究テーマ

地震・津波に対する防災意識の向上
～地震・津波の避難訓練の実施を通して～

2 テーマ設定理由

日本では大型地震と津波による被害が増えてきている。今年の9月に発生した「北海道胆振東部地震」、平成28年の「熊本地震」、平成23年の「東日本大震災」、どれも最大震度7を観測した大型地震だった。「東日本大震災」に関しては地震による直接死より、それに付随して起こった津波によって命を落とした人の方が多い。

私たちが暮らす沖縄は、琉球海溝沿いに海溝型巨大地震を引き起こすプレート間の「固着域」があること、四方を海に囲まれていることから、地震・津波が高い確率で発生することが予想される。しかし、これまでの経験から「地震・津波は少ない」という印象があり、地震に対する危機感、防災意識は低いと思われる。

児童にとって一日の大半を過ごす学校では、学校内における地震や津波などの災害に備え、日頃から災害に対する安全教育、避難訓練を行っている。よって「教師の誘導のもと学校内でどう避難したらよいか」を毎年訓練し、いざという時に備えている。

しかし、登下校中や下校後に起きた災害からの避難方法、避難意識については十分ではない。日頃から地震が起きた際や津波が発生した際に学校以外ではどこに避難すれば安全なのか、家族とはどこで落ち合うのかを考える必要がある。

これらを踏まえて、浦添市学校保健会安全部会では、避難訓練のタイミングで「地震・津波」に関するアンケートを行うことによって、学校以外での被災について考えるきっかけとし、地震・津波に対する意識の向上を目指したいと考え、本研究のテーマを設定した。

3 研究経過

- | | | | |
|------|---------|----------------------|----------------|
| (1) | 6月14日 | 第38回浦添市学校保健会定期総会 | 安全主任部会顔合わせ |
| (2) | 7月26日 | 研究テーマの設定 | アンケート作成（牧港小学校） |
| (3) | 8月10日 | 児童・保護者用アンケート作成 | （浦添市教育研究所） |
| (4) | 9月 | 各学校にて事前アンケート | |
| (5) | 10月・11月 | 地震・津波避難訓練の実施 | |
| (6) | 11月5日 | 事前アンケート（児童・保護者）集計、考察 | |
| (7) | 11月15日 | 事後アンケート修正・原稿まとめ（1） | |
| (8) | 12月13日 | 事後アンケート集計、原稿まとめ（2） | |
| (9) | 12月27日 | 原稿まとめ（3） | |
| (10) | 12月28日 | 原稿提出 | |

4 本文

(1) 研究仮説

地震・津波に関して、保護者や児童の関心や意識は低いと考えられる。避難訓練を実施し児童の防災意識が高まっている間に、地震・津波の避難に関するアンケートを行うことで、家族で避難の仕方や避難場所について話し合うきっかけになると考える。

(2) 研究方法

研究方法は以下の通りとなる。

- ① 避難訓練前に事前アンケートの実施。(児童・保護者)
- ② 地震や津波(地震や火災)の避難訓練を行う。
- ③ 避難訓練後に事後アンケートの実施。

(3) 地震・津波に関しての実態

事前アンケート(児童・保護者)

地震・津波に関する意識アンケート(児童用)事前
年 組 名前()

Q1.地震や津波が危ないと思ったことはありますか?
①はい ②いいえ

Q2.あなたの住んでいる所に津波が来ると思っていますか。
①思う ②思わない ③わからない

Q3.学校外で大きな地震や津波が起きた時、あなたならどうしますか。
[]

Q4.地震や津波などで避難しないといけない場合について、避難場所を知っていますか?
①知っている ②知らない

Q5.地震や津波などが起こった時どうするかを家族で話し合ったことはありますか?
①はい ②いいえ
「はい」の人へ、それはどのようなことですか。
[]

Q6.学校外にて大きな地震や津波が起こったら、ひなん場所や集合場所を決めていますか。
①決めている ②決めていない
「はい」の人へ、それはどこですか。
[]

地震・津波に関する意識アンケート(保護者用)事前
年 組 名前()

Q1.地震や津波が危ないと思ったことはありますか?
①はい ②いいえ

Q2.あなたの住んでいる所に津波が来ると思っていますか。
①思う ②思わない ③わからない

Q3.学校外で大きな地震や津波が起きた時、お子さんはどうすると思えますか。
[]

Q4.地震や津波などで避難しないといけない場合について、避難場所を知っていますか?
①知っている ②知らない

Q5.地震や津波などが起こった時どうするかを家族で話し合ったことはありますか?
①はい ②いいえ
「はい」の人へ、それはどのようなことですか。
[]

Q6.学校外にて大きな地震や津波が起こったら、避難場所や集合場所を決めていますか。
①決めている ②決めていない
①の人へ、それはどこですか。
[]

避難訓練前の事前アンケート結果

- ・児童、保護者とも、地域の正しい避難場所を知らない。
- ・アンケートをしても、(児童のアンケート結果より)家庭で、避難場所、避難方法についての話し合いはほとんど行なわれていない。
- ・学校以外での災害が起こることを考えていない。
- ・児童自身の判断で避難することを考えていない。

事前アンケートの結果より、仮説のような「避難訓練のタイミングでのアンケート実施」だけでは意識の向上は期待できないと予想されたため、研究方法に④避難訓練後に避難場所についての情報を提供するを加えた。

そこで、浦添市の防災マップ・防災カルテを活用して、各校区における「わが家の防災マップ」を作成し、事後アンケートと共に各家庭に配布した。事後アンケートも加筆・修正を行った。

目立つところに
お貼りください

わが家の防災マップ（沢岬小学校・幼稚園）

平成30年12月13日
沢岬小学校・幼稚園

保護者のみなさま

先日の避難訓練（保護者引き渡し訓練）のご協力ありがとうございました。
学校以外で、強い地震が起こった場合の子ども達の一時避難場所等について、各ご家庭でも話し合って決めておいてください。（下記の避難場所を参考）
決まったことは、下記に記入して、ご家族みなさんに目につくようお貼りください。

＜一時避難場所＞ 急な強い地震や激しい雨などの災害の時に、一時的に避難する場所。
おさまったら、各自で、家にもどります。

<input type="radio"/> 沢岬	（めじろ公園 クニンドーの森公園	沢岬端川原東公園 沢岬緑地）	沢岬前原西公園	沢岬長田原公園
<input type="radio"/> 経塚	（夕日ヶ丘公園	経塚洗江原公園	龍巻松の木公園	サンエー経塚シティ）
<input type="radio"/> 大平 安波茶	（大平瓶ノ平原公園	あじさい公園	老年原公園	）

＜収容避難所＞ 大規模災害による被害を受けた者、受けるおそれのある者を収容保護する場所。
そのため、備蓄倉庫を備えています。非常食を提供できます。

沢岬小学校

＜小規模避難所＞ 大規模災害による被害を受けた者、受けるおそれのある者を収容保護する場所。
そのため、備蓄倉庫を備えています。非常食を提供できます。

沢岬自治会 経塚自治会 大平自治会 県営経塚団地自治会

＜福祉避難所＞ 高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児、病気等の方に特別に配慮された避難場所。

経塚ゆいまーるセンター（経塚児童センター）

わが家の防災メモ

※家族で話し合しましょう。

①家族の避難場所

②離ればなれになった時の
家族の集合場所

③一番の連絡先

事後アンケート（保護者）

地震・津波に関する意識アンケート（保護者用）事後

年 組 名 前 ()

Q1.地震や津波が危ないと思ったことはありますか？

①はい ②いいえ

Q2.あなたの住んでいる所に津波が来ると思いませんか？

①思う ②思わない ③わからない

Q3.地震や津波などで避難しないといけない場合について、近くの避難場所が分かりましたか？

①はい ②いいえ

Q4.地震や津波などが起こった時どうするかを家族で話し合いましたか？

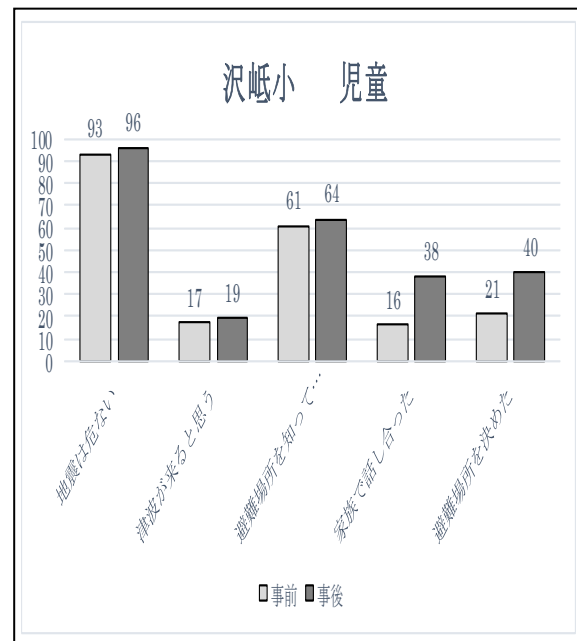
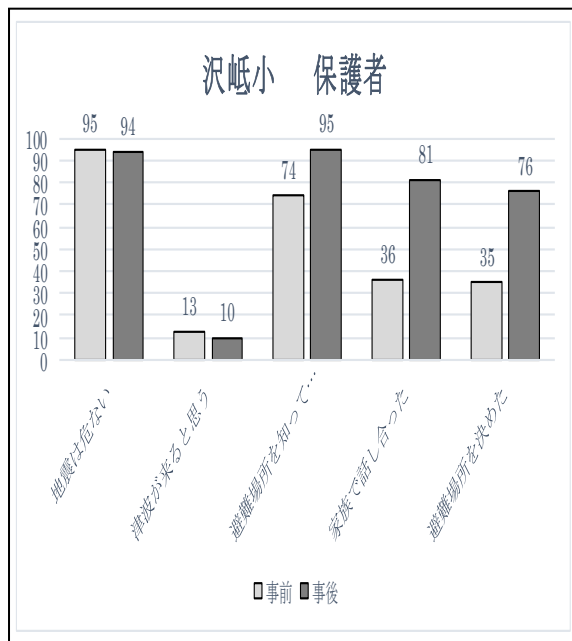
①はい ②いいえ

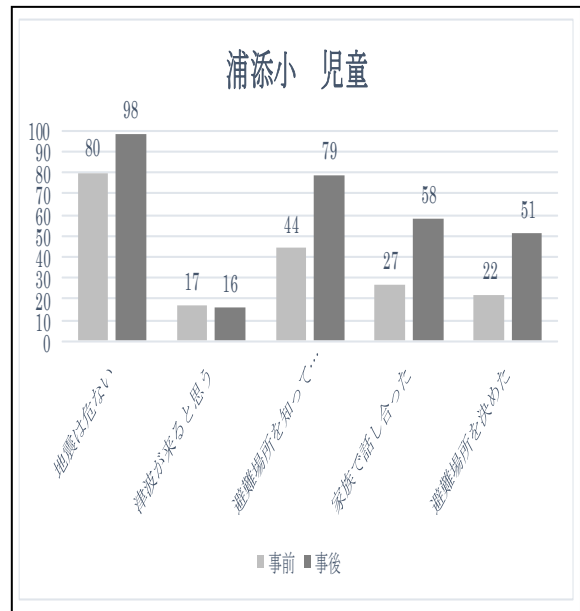
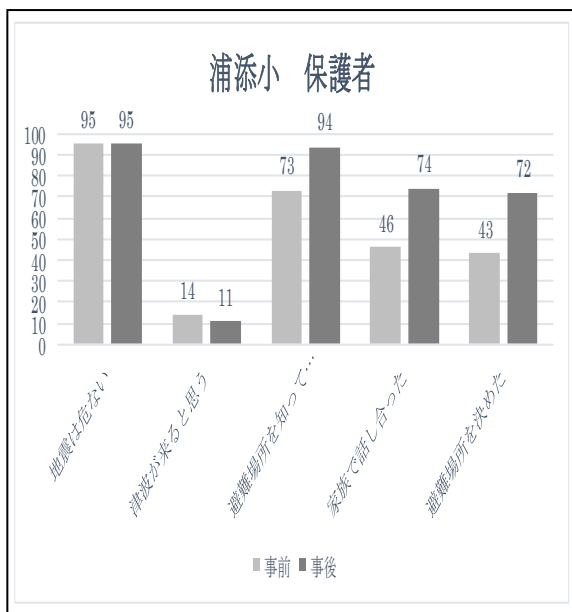
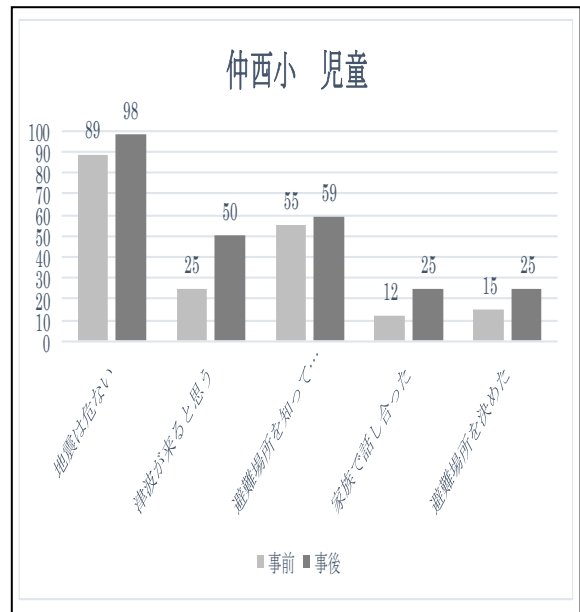
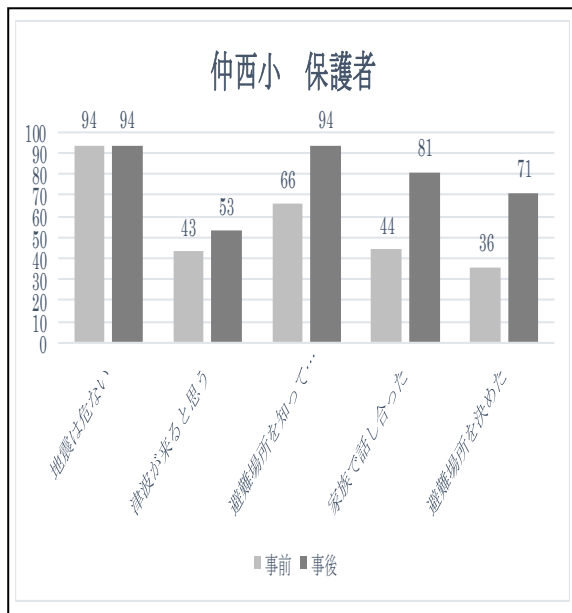
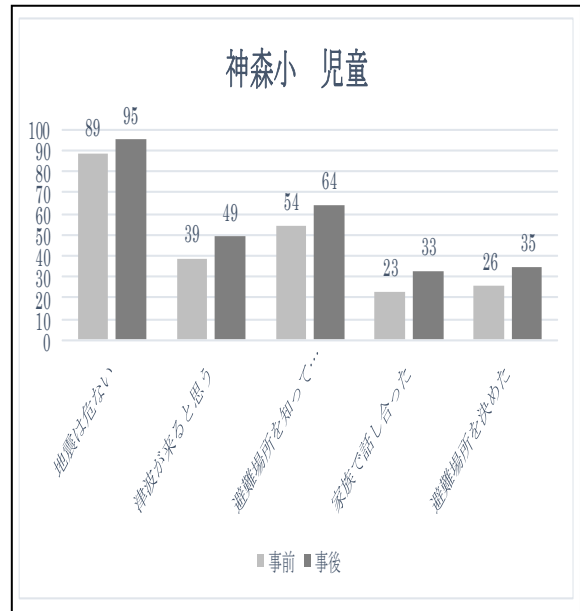
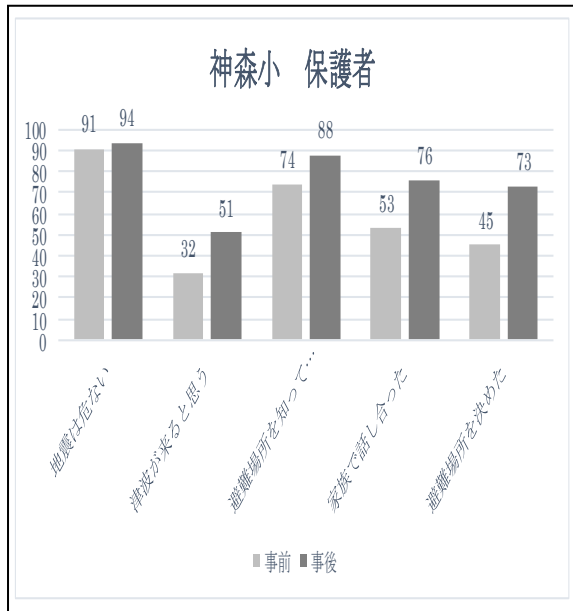
Q5.学校外にて大きな地震や津波が起こったら、避難場所や集会所を決めましたか。

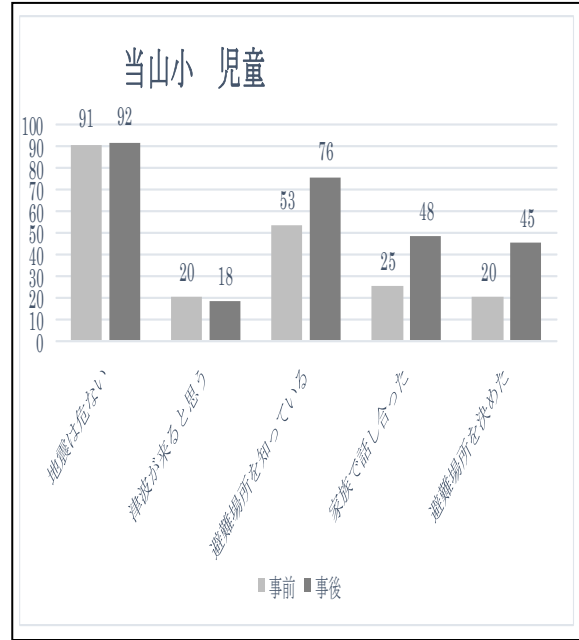
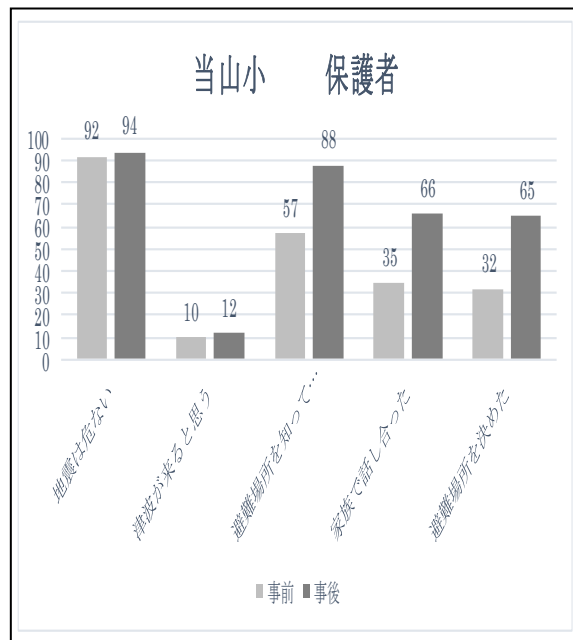
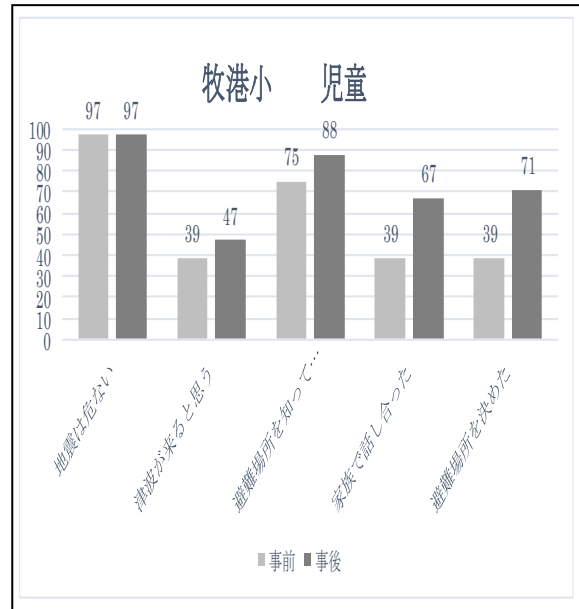
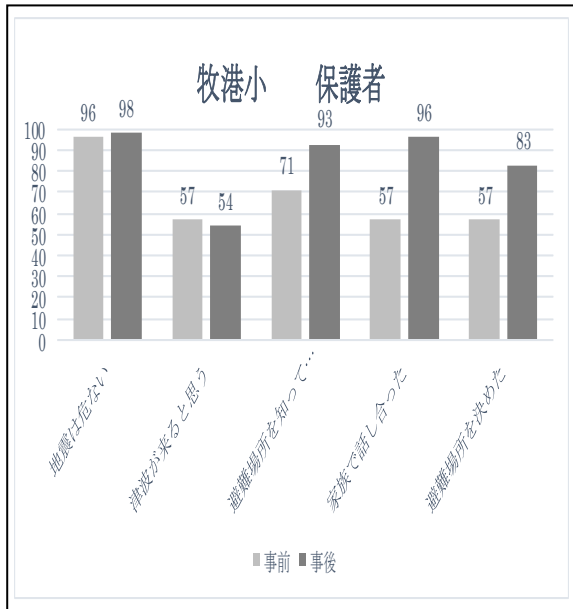
①決めた ②決めてない

このアンケートを通しての感想等があれば、自由にお書き下さい。

アンケート結果（グラフ）







アンケート結果

～保護者～

- ・地震に対する危機意識は高い。
- ・どの学校も資料配付により、地震・津波に対する意識の向上が見られた。
- ・学校の場所によって、津波がくると考える保護者の割合は違った。
- ・保護者を巻き込んで避難訓練した学校と、そうでない学校では、どちらも同じくらい意識の向上が見られた。

～児童～

- ・保護者同様、地震に対する危機意識は高い。
- ・保護者同様、事前より事後の方が意識の向上が見られた。
- ・保護者と比べ、変化の割合は少ない。

防災マップ配布後の保護者の声

- ・アンケートがきっかけになって、家族で、避難場所の再確認ができました。
 - ・このアンケートを通して、今後の自然災害に対する意識が高まった。避難場所を把握し、どんな状況でも安心して家族が集まれるように話し合いたい。
 - ・以前から、防災に関して気にしていましたが、プリントをもらって、避難場所が正確にわかり、家族で考えることができました。
 - ・家族の中では、避難場所を決めていましたが、防災マップを利用したことがなかったのも、場所を知るためのいい機会となりました。
 - ・一時避難所、津波避難所などに避難場所が分かれていることを知りませんでした。回の防災マップ非常にためになりました。
 - ・地域全体で、いろいろな災害の準備（避難場所など）がなされていることを、初めて知りました。
 - ・「いつ起こるかかわからない災害というものについて」子供に伝える、良いきっかけとなりました。
 - ・登下校途中に起きた災害の時の避難の仕方について、家族で話し合う必要を感じることができました。
 - ・初めて避難訓練に参加でき、親もシミュレーションができてよかったです。
 - ・防災グッズも再チェックし、家族で保管場所などの確認もしたいと思います。
- ※学校だけでなく、もっと地域（自治会など）も巻き込んで、防災教育をやっていく必要を感じました。
- ※アンケートが話し合える機会となって良かった。定期的に防災のお便りみたいなものがあるとうれしいです。
- ※避難訓練に参加し、地震津波の避難方法について一通り把握することができました。しかし、土地柄的には、崖崩れや大雨による土砂災害の方が心配です。崖崩れや土砂災害が起きた場合の避難経路はどうするのでしょうか？
- ※避難場所が、土砂災害警戒区域に入っているようなのですが、大丈夫なのか不安が残ります。

5 成果と課題

(1) 成果

- 研究グループ6校でアンケートを行えたので、自校だけの問題ではなく、浦添市全体の保護者の災害に対する意識の課題が分かった。
- そのため、研究の方向性を変更し、保護者へ資料の提供と話し合いの呼びかけを行うことができた。
- 事前と比較すると、事後は保護者・児童とも意識の向上が見られた。
- 各校区に合わせた「わが家の防災マップ」が作れた。

(2) 課題

- 学校外での避難の仕方だったが、「災害時は先生に従う」という回答も多かった。このことより、先生が側にいない場合について自分や家族で判断し、避難する意識の向上は十分ではない。
- 学校の避難訓練の時期に合わせてアンケートを実施したが、資料配布による意識の変化が大きいと考えられるので、ゆっくり家庭で話し合ってもらえそうな時期に実施した方がよい。
- 保護者、児童の意識の向上が、避難訓練の時期に行うことが効果的だったかは、はっきりさせられなかった。
- 保護者のコメントより、毎年呼びかけを行うとより意識の向上が期待できると思われる。課題より、保護者への配布プリントを作成してみました。(資料1)

資料1

学校外での地震・津波に関する意識アンケート

*学年が変わると行動範囲や生活様式が変わってきます。そのため、家庭でも災害時の避難方法について確認・話し合いをお願いします。

Q1.地域の災害避難場所を知っていますか？
はい いいえ

Q2.地震・津波が起こったとき、どこに逃げるか家族で話し合いましたか？
はい いいえ

Q3.周りに大人がいない時の避難の仕方について話し合いましたか？
はい いいえ

☆地域の防災マップの避難場所を確認し、家族で話し合しましょう。

〈わが家の防災メモ〉

家族の避難場所	
離ればなれになった時の 集合場所	
一番の連絡先	

資料2 沢岷小学校 地震・津波避難訓練の様子（保護者の児童引き取りまで）
授業参観・5校時

○地震発生



○避難開始



○運動場へ避難



○学年ごとに整列



○兄弟移動（高学年が低学年へ）



○保護者へ引き渡し



○保護者は園児、児童引き取り後自治会へ移動



○浦添市女性防火クラブの方が参加



本年度、初めて「保護者への児童引き渡し訓練」を実施。保護者約 400 名をはじめ、地域の方々も参加してくれるなど、防災への関心の高さがうかがえた。

「保護者児童引き渡し訓練」は

- ①教頭の合図で、上の子が弟妹の所へ移動
 - ②兄弟ひとまとまりになってから、保護者に引き渡し開始。
 - ③一番下の学級で迎える
- という流れで進めた。

○引き渡し時には右の「災害時引き渡しカード」に必ずチェックをして引き渡す。

○近所の方やお友達の親には引き渡ししない。などの共通確認事項を徹底し確実に安全に引き渡しを行った。

引き渡し後は自治会ごとに集合整列。引き渡し後、学校職員は避難所運営にあたることになっている。

今回の引き渡し訓練をきっかけに、各自治会とも連携し災害に備えていこうと話した。

沢岬校区の防災について、みんなで考えるいい機会になった。

参考文献

- 「浦添市地域別防災カルテ」浦添市ホームページ
- 「浦添市防災マップ」浦添市ホームページ

災害時児童引き渡しカード									
浦添市立 沢岬小学校									
学年・学級		カード内容確認印		4年 組		番			
1年 組	番			5年 組	番				
2年 組	番			6年 組	番				
3年 組	番			幼稚園	組	番			
児童名		性別		保護者名		続柄			
ふりがな		男・女							
住所		電話		自治会名					
兄弟姉妹の有無 記入例 (1年1組太郎、3年2組花子)									
H	年度	チェック欄	H	年度	チェック欄	年度	チェック欄		
年 組			年 組			年 組			
年 組			年 組			年 組			
年 組			年 組			年 組			
年度	チェック欄		年度	チェック欄		年度	チェック欄		
年 組			年 組			年 組			
年 組			年 組			年 組			
年 組			年 組			年 組			
緊急時の連絡先									
氏名		続柄		携帯電話		災害時チェック		訓練用チェック欄	
①		①				1年	4年		
②		②				2年	5年		
③		③				3年	6年		
以下は担任等、教職員が記入する欄									
児童の引き取り者 (上記の①～③以外の場合、記入する)						続柄			
氏名									
避難場所						引き渡し日時			
沢岬小・昭和薬科・自宅・祖父母宅						月 日 時 分			
その他 ()									

給食部会

研究テーマ

「食事のマナーを通して、食に関する関心を高める指導」

発表者

宮城小学校 教諭 大城 茜

研究部員（小学校Bグループ）

港川小学校	教諭	永山 覚（研究部長）
浦城小学校	教諭	小禄 直明
内間小学校	教諭	眞喜屋 綾乃
宮城小学校	教諭	大城 茜・許田 麻莉
前田小学校	教諭	長川 由美
浦添共同調理場	栄養教諭	崎浜 あづさ
浦添共同調理場	学校栄養職員	屋部 百音
浦添共同調理場	学校栄養職員	新里 成美
当山共同調理場	栄養教諭	安慶名 恭子
当山共同調理場	学校栄養職員	天久 一樹

給食主任部会・栄養士部会

I 研究テーマ

「食事のマナーを通して、食に関する関心を高める指導」

II テーマ設定の理由

本研究部会では、これまで学校と栄養教諭等との連携を図りながら、小中学校の発達段階に合わせた指導案を作成し、授業を実施してきた。食の大切さは、私たちも周知していることであり、「食育」の重要性が叫ばれてからは、益々、学校・家庭・地域社会が連携し、色々な取り組みが行われているところである。また、学校教育における食に関する指導の目標は、①食事の重要性、②心身の健康、③食品を選択する能力、④感謝の心、⑤社会性、⑥食文化の理解などである。すなわち、食に関する指導は、学校教育活動全体を通じて行う食育活動である。

こうした、多岐にわたる指導を小学校段階では、低学年から高学年の児童全体に行う計画的、継続的な取り組みが必要であると考え。食事のマナーについても、学校給食開始の小学校1年生から指導が始まり、各学年の発達段階に応じた年間計画に基づいた指導を行っている。また、学校における食に関する指導を進めるためには、食に関する指導の基本的な考え方、指導方針などを明確にし、教職員の共通理解を図り、学校給食を生きた教材として活用しつつ、給食の時間だけでなく、各教科や道徳、総合的な学習、特別活動といった学校の教育活動全体を通して行われることが必要である。

そこで今年度は、日頃から学んでいる食事のマナーについて学習を深めることにより、児童の食に関する関心・意欲・態度が高まるであろうと考え本テーマを設定した。

III 研究経過

期 日	内 容
6 / 1 4 (木)	○浦添市学校保健会総会 研究部会の結成 ○役割分担と連絡先交換
8 / 8 (水)	○指導案作成と検討 ○次回までの指導案、アンケート、教材作成の役割分担
8 / 1 7 (金)	○指導案検討(発問と板書計画) ○事前・事後アンケートの内容確認 ○検証授業、研究授業時の役割分担(時計、写真)
9月初旬	○実態把握 ○事前アンケート実施、集計・分析
9 / 1 9 (水)	○検証授業 浦城小 2年4組 (T1 小禄直明、 T2 安慶名恭子) ○指導案修正
9 / 2 6 (水)	○授業実践 浦城小 2年2組 (T1 小禄直明、 T2 安慶名恭子) ○研究授業の振り返り
1 1 / 1 (木)	○児童の変容・経過確認 ○事後アンケート実施、集計・分析
1 1 / 2 2 (木)	○研究報告書と発表資料の確認・修正

12 / 25 (火)	○研究報告書提出締め切り
1月中	○発表練習と発表資料の修正
2 / 7(木)	○第39回浦添市学校保健研究大会

IV 研究内容

第2学年 食育指導案

平成30年 9月26日(水) 5校時

2年2組 計32名

指導者 担任 小禄 直明 (T1)

栄養教諭 安慶名 恭子 (T2)

共同研究者 眞喜屋 綾乃 永山 覚

大城 茜 長川 由美

安慶名 恭子 天久 一樹

崎浜 あづさ 新里 成美

屋部 百音

1 題材「あたりまえ給食マスターを目指そう」

2 題材について

(1) 児童の実態

児童が第2学年に進級して6ヶ月が過ぎようとしている。入学以来、1年生として「やってもらうこと」「教えてもらうこと」から始まった小学校の学校生活を一通り経験し、2年生となった現在では、様々な場面で昨年度とは違った行動が求められている。給食の時間についても、準備や後片付けにおいて工夫・改善を重ね、ルールを守った活動ができるようになってきた。

事前に実施した「あたりまえ給食アンケート」では、「食事の前には手を洗う」「食事を食べる前と後にはあいさつをする」「食べた後は歯磨きをする」などのマナーについては、理解している児童が多い。しかし、給食をつくったり、食器を洗浄してくださったりしている方々に対するマナーという観点から見ると、完食できる児童が少ないために残飯が多く、食器類の後片付けの仕方なども乱雑であるといった実態がある。

○あたりまえ給食アンケート（32名実施）（9月実施）

① きゅうしょくをたべる前に、手をあらっていますか。	よくできる	できる	できない
	31名	1名	0名
② きゅうしょくをたべる前とあとには、あいさつをしていますか。	よくできる	できる	できない
	24名	8名	0名
③ 出されたきゅうしょくは、のこさずたべていますか。	よくできる	できる	できない
	13名	7名	12名
④ しょっきをかたづけるときは、きれいにならべていますか。	よくできる	できる	できない
	13名	11名	8名
⑤ たべたあとには、ちゃんとはみがきをしていますか。	よくできる	できる	できない
	30名	2名	0名
⑥ きゅうしょくは、好きですか。	はい		いいえ
	32名		0名

(2) 題材設定の理由

給食時のマナーを確立し、それを守ることは、給食に携わっている方々への感謝の気持ちを表すことにつながる。また、生きているものの「命」を頂いているという自覚をもたせ動物や植物に感謝の気持ちを表すことにもつながる。そこで、自分たちの給食の時間を見つめ直し、自分の食事や後片付けの仕方などの「給食時のマナー」の大切さについて考えさせていき、自分たちの「給食時のマナー」を向上させようとする姿勢をもたせるようにしたい。また、「あたりまえ給食」の歌について考える学習を通して、他者のことを思いやり、学校生活を営む上での望ましい人間関係を築き、望ましい食習慣が形成されていくと考え、本題材を設定した。

(3) 本題材のねらい

本題材を通して、「あたりまえ給食」の歌の6項目について考え、食事のマナーを身につけさせていく。

○あたりまえ給食の歌詞

給食食べる前には必ず手洗い　あたりまえ給食 給食たべる前と後にはあいさつ　あたりまえ給食 もりもり食べると元気がいっぱいあふれる　あたりまえ給食 出された給食残さず食べよう完食　あたりまえ給食 片付けするとききれいに並べて気持ちいい　あたりまえ給食 食べた後にはちゃんと歯磨きしようね　あたりまえ給食

また、栄養教諭から食事のよさや栄養についての話を聞くことで、食事の働きを知り、苦手な食べ物を食べてみたいという意欲を育てたい。

3 評価規準

集団活動や生活への 学びに向かう力と人間性の寛容	集団の一員としての 思考・判断・表現等	集団活動や生活についての 知識・技能
給食時のマナーについて関心をもち、進んで給食時のマナーの実践に取り組もうとしている。	給食時のマナーについて見直し、自分のがんばりたいことを考え、判断し、実践している。	給食時のマナーを守ることと、元気に学習や活動ができ、生き物の命や調理場の方々への感謝につながることを理解している。

4 本時の学習

(1) ねらい

自分の食事や後片付けの仕方と正しい食事のマナーとの違いに気付き、食事のマナーの大切さについて理解を深め、基本的な食習慣やマナーを守ることができる。

(2) 本時の授業仮説

- ・児童に身近な「あたりまえ給食」の歌を使い、めあての焦点化を図る。
- ・食事のよさや栄養について理解を深めるために、栄養教諭とTTで授業を行う。

(3) 食育の視点

- ・食事を作ってくれる人の努力を知り、心をこめて、いただきますとごちそうさまのあいさつができる。(感謝の心)
- ・みんなと協力して給食の準備や後片付けができ、食器を正しく並べることができる。(社会性)
- ・好き嫌いせずに食べようとする。(心身の健康)

(4) 展開

	学習活動	指導上の留意点 ○教師の手立て ・予想される児童の反応	評価方法
導入 5分	1 児童は、1学期に校内で放送された「あたりまえ給食」の歌を歌う。 2 児童は、めあてを確認する。	○教師は、電子黒板に「あたりまえ給食」の歌詞を掲示し、一つ一つの項目をとらえやすいようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> きゅうしょくのときのやくそくをたしかめよう </div>			
展開 30分	3 児童は、どうして給食を食べる前には手洗い、食べた後には歯磨きをするのかについて確かめる。 4 児童は、どうして給食を食べる前と後にはあいさつをするのかについて考える。 5 児童は、どうして食事をとると元気がでるのかについて考える。 (栄養教諭の話聞く) 6 児童は、食器をきれいに並べる理由について考える。 (動画視聴)	○教師は、黒板に「手洗い」「歯磨き」をしている様子の写真を掲示し、児童の考えを板書する。 ・「手にはばい菌がたくさんいるから」 ・「食べたあとに歯を磨かないとむし歯になるから」 ○教師は、黒板に「あいさつ」をしている様子の写真を掲示し、児童の考えを板書する。 ・「食事のときのきまりだから」 ・「何か言わないとおかしいから」 ○栄養教諭から給食のよさや栄養について話をする。 ○教師は、調理場での食器洗浄の様子を児童に視聴させる。 ○教師は、調理場からのメッセージを児童に視聴させる。	・食事のマナーについての学習から食事のマナーを守ることに関心を持つことができる。 (関心・意欲・態度) (ワークシート)
まとめ 10分	7 児童は、本時の学習から、これから自分がどうしていきたいかをワークシートに書き、発表する。 (振り返り)	○教師は、児童に本時の授業の振り返りを発表させる。	・あたりまえ給食について自分の考えをワークシートにまとめることができる。 (知識・理解)

(5) 事後指導

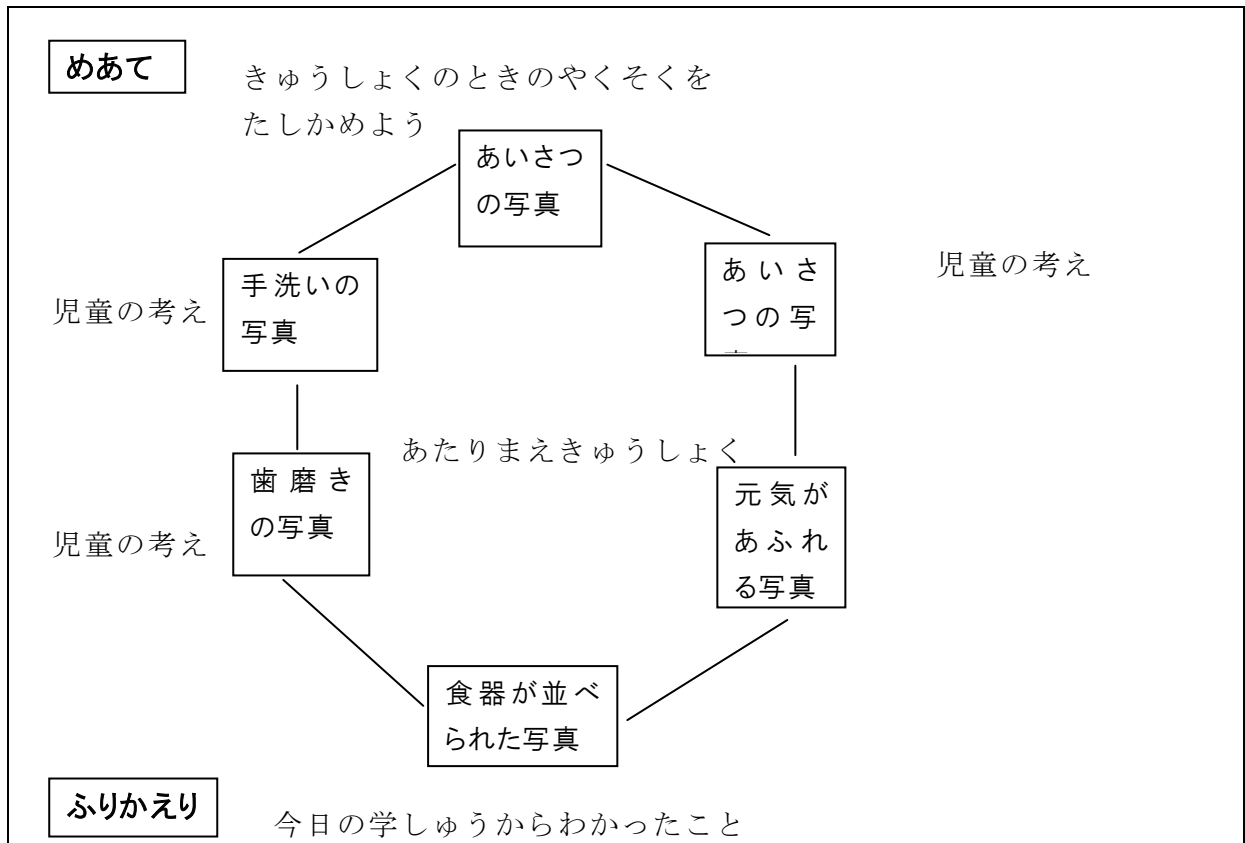
○「あたりまえ給食」のやくそくを守ることができているかたしかめよう！

(6) 他教科との関連

○特別活動：もぐもぐきゅうしょく～気持ちのよいたべかた～

○特別活動：きゅうしょくありがとう～きゅうしょくができるまで～

5 板書計画



6 本時の様子



あたりまえ給食を歌おう！



給食を作ってくれる人にありがとうの気持ちをこめてあいさつをします。



ぼくたちのからだにはどの栄養も大切なんですね。



これからもマナーをまもって完食できるようにがんばろう。

授業研究会より【授業参観された先生方の感想】

- 歌で入るところがよかった。
- 子どもの言葉をもとにめあてをたて、興味・関心を引きやすくしていた。
- あたりまえ給食でプロセスマナー、約束事が簡潔に示されていたのでぜひ参考にしたい。
- 子どものつぶやきをしっかり拾って授業されていたのはとてもよかった。
- 発表が活発でよかった。日頃の発表形態が整っているのだろうと感じた。
- 今日の献立メニューを授業に活用したのはとてもよかった。
- 終始、丁寧で優しい声のトーンで接する様子から子どもたちとよい関係を築いているのだろうと感じた。
- 調理員さんからのメッセージがあり、子どもたちが作る側の気持ちを考えることにつながった。
- 視覚情報が多くて分かりやすかった。
- 栄養士の先生の説明が分かりやすかった。

- 子どもたちがのびのびしていて、みんなで授業している雰囲気がよい。
- △栄養教諭の先生の時間が短かったので、残念だった。ぜひ、いろいろ専門的に話しているのを見てみたかった。
- △子どもたちの活動が少なかったので、もっと多くの子どもたちが積極的に参加できるようになったらもっとよかった。
- △振り返りが栄養、片付けに傾いてしまっていたので、最後にどんな勉強があったね、などの振り返りがあるとよかった。
- △本時の授業の「焦点」はどこなのか。何を一番子どもたちに伝えたり、考えさせたりしたいのか分かりづらかった。《決まり・栄養・言葉（心）・食器並べ》
- △「あたりまえ給食」の歌詞キーワードを活用するとよいと思った。
- △なぜ、挨拶するのか？自分の考えを言ってペアで話し合わせてもよいのでは。

【指導助言 浦添市教育委員会指導監 石川博久先生】

- 本時の授業全般について
 - ・食育の授業での栄養教諭との関わり方が大切。
 - ・栄養面に絞って、栄養教諭に任せてもよい。担任は子どもと同じ立場になって聞くのもよい。
 - ・今日のメインをどこに持って行くとよいのか。→「残さず食べよう」
 - ・児童を受け止めたい、認めたい、背中を押したいという先生の気持ちが表情や言葉に表れていた。

- アンケートについて
 - ・事前にアンケートをとる（アンケートの時点で授業は始まっている）
 - アンケートの内容は、実態として把握したい内容であるか。
（全国や沖縄県の実態との比較をグラフに出して1週間程前に背面黑板などに掲示しておく。）
 - 帰りの会などを利用してグラフを見て気づいたことや思ったことを発言させ、それを本時につないでいく。

- 導入について
 - ・めあてを子どもの声から拾って考えていたが、約束やマナーについて45分間、子どもたちが本当に考える必要性を感じていためあてだったのか。子どもの声ではあったが、教師が用意したものだった。
 - ・特別活動では、集団で話し合っ、意思決定するものである。今日の学習は活動2である。
 - 活動1 みんなでやることを決める。
 - 活動2 食育の観点を踏まえた学校給食望ましい食習慣の形成
健康によい食事の取り方。

○展開について

- ・一問一答になってしまう授業では問いのハードルが低い。一人で解決できる。一人では解決できないような問いを投げかける。意図的に思考をストップさせるような問いを出すことが大切である。「友だちと相談しなさい。」と指示を出さない。一人で考えたい児童もいるし、席を立てて友だちと相談したい子もいる。児童が自分で学びとるような授業作りをしなければならない。

○資料提示の方法

- ・写真の見せ方の工夫・・・しっかり子どもを引きつけてから見せる。

○事後指導について

- ・焦点化して振り返ること→自分の目標設定→実行（1週間ほど）
（例）残さず食べよう
- ・どのくらいできたかみんなで振り返る。→忘れた頃にまた取り組んで振り返る。
- ・自分のクラスだけでなく、ほかのクラスでも実践し、次の学年に上がったときに生かせるようにする。視点を決めると学びは広がっていく。

7 事後の指導

	児童の活動	指導上の留意点	目指す評価方法
事後の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い ・あいさつ ・給食を食べる ・食器を片付ける ・歯を磨く 	<ul style="list-style-type: none"> ・食前には何をするのか考えさせる。 ・給食を作ってくれた人、生き物の命に感謝することを知らせる。 ・給食を作ってくれた人、生き物の命に感謝することを知らせる。 ・給食を作ってくれた人に感謝することを知らせる。 ・食後には何をするのか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食前にきれいに手を洗うことができる。 ・食前食後に感謝の気持ちをこめてあいさつすることができる。 ・給食を好き嫌いなく食べることができる。 ・食器きれいに並べることができる。 ・食後にしっかりと歯を磨くことができる。

8 事後アンケート（32名実施）（10月実施）

① きゅうしょくをたべる前に、手をあらっていますか。	よくできる	できる	できない
	32名	0名	0名
② きゅうしょくをたべる前とあとには、あいさつをしていますか。	よくできる	できる	できない
	28名	4名	0名
③ 出されたきゅうしょくは、のこさずたべていますか。	よくできる	できる	できない
	23名	4名	5名
④ しょっきをかたづけるときは、きれいにならべていますか。	よくできる	できる	できない
	28名	4名	0名
⑤ たべたあとには、ちゃんとはみがきをしていますか。	よくできる	できる	できない
	32名	0名	0名
⑥ きゅうしょくは、好きですか。	はい		いいえ
	32名		0名

9 事後指導の様子



給食を作ってくれた人、生き物の命に感謝して「いただきます」を言うことができました。

好き嫌いしないで、給食を食べることができました。





食缶ゼロを目指して並びました。
給食をたくさん食べることができました。

少しも残さず食べました。
食器もきれいに片付けました。



作ってくれた人に感謝の気持ちを
こめてきれいに食器を並べることが
できました。

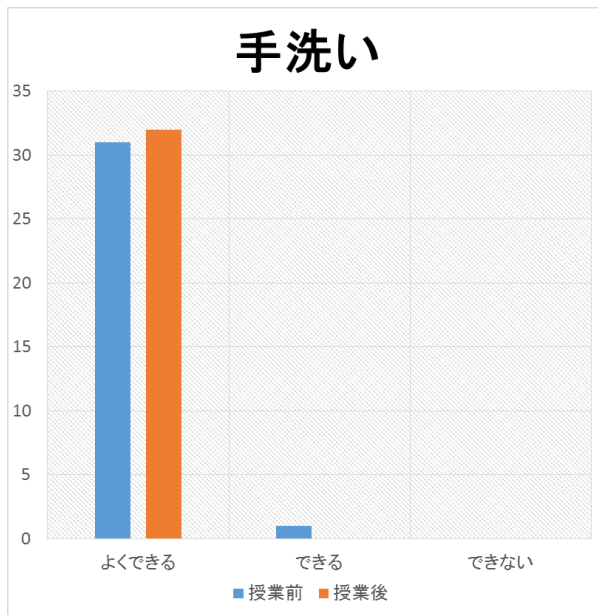


むし歯ゼロを目指して、
食後はしっかり歯磨きすることが
できました。



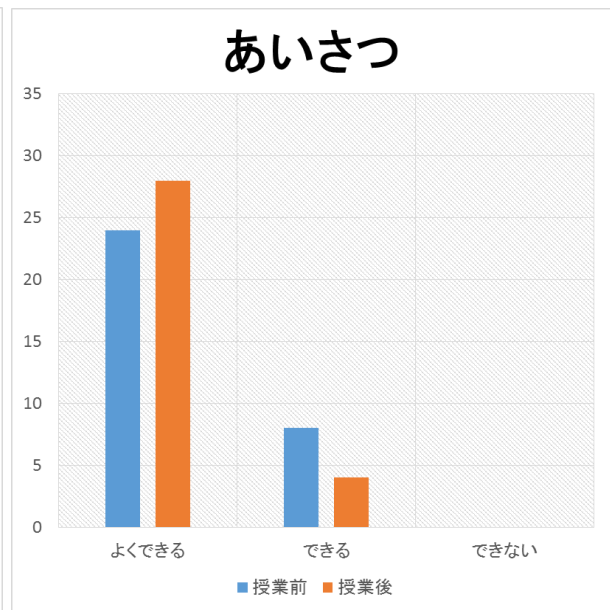
V 考察（あたりまえ給食アンケートより）

① 給食の前に手洗いをしていますか。



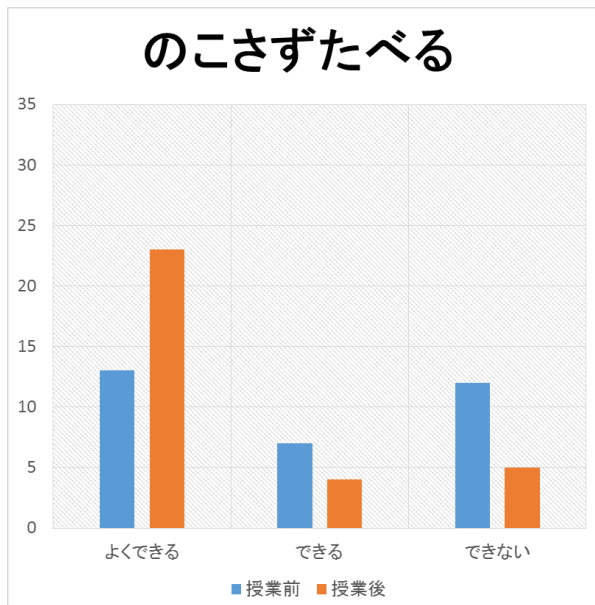
ほとんどの児童が手洗いをしている。

② 給食の前と後には挨拶をしていますか。



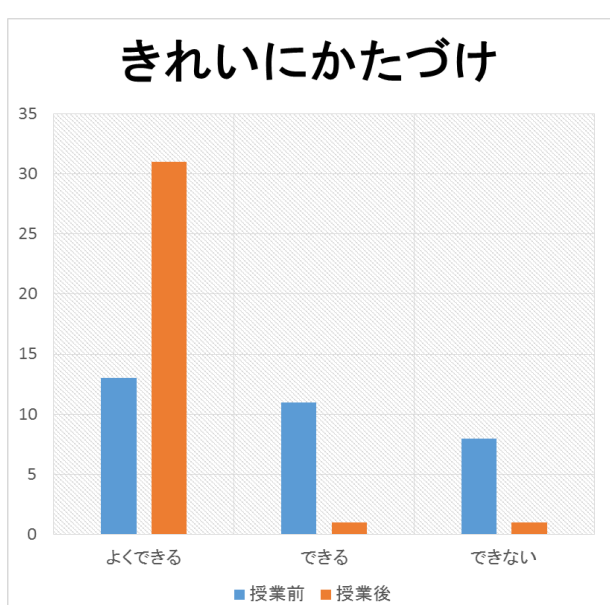
挨拶がよくできる児童が増えた。

③ 給食を残さず食べていますか。

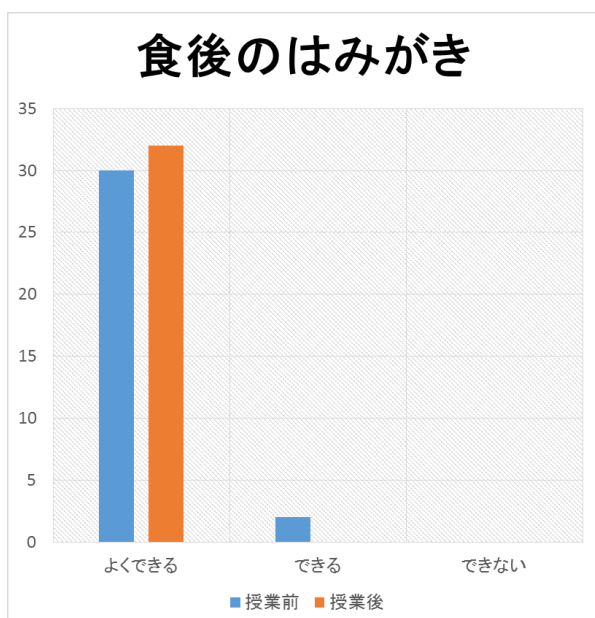


自分のもらった分をしっかりと食べられるようになった児童が増えた。

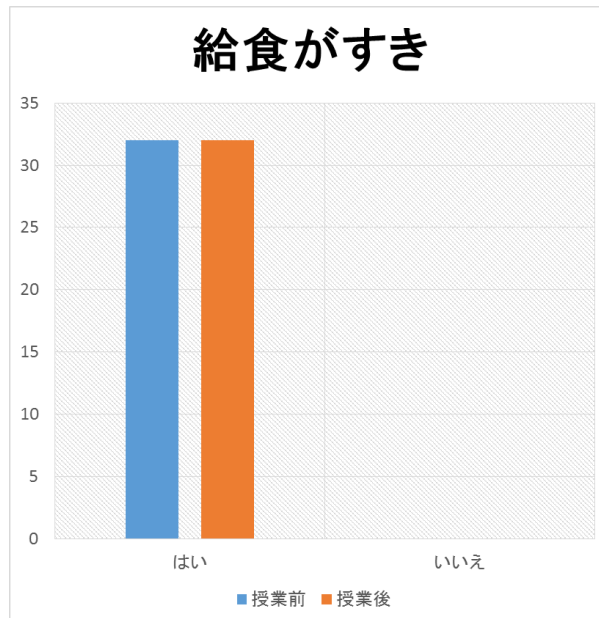
④ 食器をきれいにかたづけていますか。



きちんと片付けすることを意識してできるようになった児童が増えた。



全児童がしっかり歯磨きをすることができるようになった。



全員が給食を好きなことは変わらない。

VI 成果と課題

【成果】

- ICT機器を活用し、歌を取り入れたり、調理員さんからのメッセージを見せたりすることで、子どもたちは興味・関心をもち、作る側の気持ちも考えることにつながった。
- 本学級だけでなく、2学年全体で実践したので、次の学年でも食事のマナーを意識した継続指導を行っていくことができると考える。
- 授業を通して、児童の食に対する意識が高まった。

【課題】

- △アンケートの結果をもとに、事前に児童の実態を把握した授業を組み立てればよかった。授業の焦点の明確化ができなかった。
- △まだ苦手なもの（野菜など）は残す児童がいるので、継続した指導が必要である。

VII 参考文献

『うちなあ～のくすいむん くわっち～さびら』

2015年 3月 沖縄県 沖縄医師会

『たのしいがっこうせいかつ』 國學院大學教授 前文部科学省初等中等教育局視学官

『食に関する指導の手引き』平成22年 3月 一第一次改訂版一 (文科省)

『学習指導要領（特別活動）』平成28年 3月

県外研修報告

平成30年度全国学校保健・安全研究大会

平成30年10月25日(木)・26日(金)

開催地 鹿児島県 鹿児島市

報告者 浦添市立神森中学校 養護教諭 上原 真美

平成30年度 全国学校保健・安全研究大会 研修報告

浦添市立 神森中学校
養護教諭 上原 真美

1. 主題

生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進
～自ら健康で安全な活力ある生活を送ることができる子供の育成～

2. 研修概要

(1) 期日

平成30年10月25日(木)、26日(金)

(2) 開催地及び会場

開催地 鹿児島県鹿児島市

会場 1日目 鹿児島市民文化ホール

2日目 ホテルウェルビューかごしま

(3) 内容

① 全体会

- ・表彰式 学校保健・安全の功労賞に対する文部科学大臣表彰を行う
- ・記念講演

② 課題別研究協議会 (第1課題～第10課題)

(4) 参加人数 1,497人 沖縄31人

3. 研修報告

【全体会記念講演】

講演内容 「発育期におけるスポーツの意義と課題」

講師 日本臨床スポーツ医学会 理事長 川原 貴

《講義内容》

- ・我が国では超高齢社会の進行に伴い、健康寿命の延伸が課題になっており、人生100年時代に耐える運動器を獲得するには発育期の運動・スポーツが重要である。
- ・最近の児童・生徒の運動習慣等の調査において、中学では運動をしない子と運動をする子に2極化がみられ、特に女子中学生の運動離れが問題である。
- ・スポーツ外傷・障害を予防するには、その発生状況を把握し、その原因を分析し、対策をとり、外傷・障害が減るか確かめるというサイクルが必要であり、そのような取り組みもなされるようになってきている。

・ 今後は、学校におけるスポーツドクターの顧問制度など、何らかの形でスポーツドクターと連携する仕組みが望まれる。

【課題別研究協議会 第3課題 心の健康】

豊かな人間性と社会性を育み、心の健康の保持増進を目指す教育の進め方

(1) 研究発表

■心の健康問題への適切な対応を図るための支援体制について

養護教諭を中心とした心のケアに関する取組

鹿児島県日置市立妙円寺小学校 養護教諭 赤池 美保

《実践内容》

① 児童の心身の健康問題の早期発見と予防的支援

・ 早期発見に向けた児童の心身のサインを発見するための日常の取組として、学級担任と丁寧な連携を心がけたり、職員向けの保健だよりを発行している。

・ 予防的支援の取組として、心やすらぐ保健室の環境づくりに努めたり、児童自身が自分の心の健康状態に興味をもてるよう「心の天気」の掲示物を常掲したり、悩みを持つ児童への相談窓口として「心のポスト」を設置し、活用を進めている。

② 保健室で行う心のケアの充実

・ 不登校傾向児童への対策として、遅刻等で登校する児童について学級担任に記録を継続的に残してもらうことにより、児童の行動やささいな心の変化などに気づくことができ保健室での対応に生かしている。

・ 折り紙や自由帳・ペン等、児童が関心をもちそうな物を納めた「わくわくボックス」を提供し、その中から興味のあるものを選択させるなどして、話のきっかけをつくっている。

③ 自己肯定感や自尊感情を高めるための保健指導等の工夫

・ 年間指導計画に基づき、1年間に各学年4回程度の保健指導を行っている。

・ 1日2回以上トイレのスリッパを並べ、スタンプが20個以上そろった児童には、委員会で作成した賞状を渡すといったボランティア活動の実践をしている。

■キャリア教育の一助として心の健康づくり

～卒業後を見据えた健康教育の展開～

長崎県立清峰高等学校 養護教諭 辻 圭子

《実践内容》

① 生徒保健委員会活動

・ 校内放送の利用、文化祭での展示活動などの広報活動や「ペットボトルキャップ回収活動」の取り組み等をして助け合いの意識を高めている。

・ 応急手当講習会等への研修活動の参加や養護教諭が行う保健指導へも参画している。

② 命と生（性）に関する教育の実践

・ 思春期という発達段階に応じ、「自分や他者の価値を理解し、命の尊さを再認識することで自尊感情や自己有用感を養い、いじめや自殺の防止に繋ぐ」「正しい性行動のための自己決定力の育成」の2つを目的に、命と生（性）に関する教育を展開している。

③ 保健指導の充実

・保健指導を実践するにあたっては、あらゆる人材と機会を活用し、十分な事前準備のもと創意工夫しながら実施している。

④ 相談活動

・各種検査、面談・悩み調査等により生徒の実態の把握と理解に努め迅速な集計とアセスメントののち、個に応じた適切な対応に繋げている。

・週に1回の分掌会やケース会議、各種支援委員会ではこころとからだの支援部を中心に、企画運営を行い支援体制の充実を図っている。

■心身の健康課題の解決を目的とした健康教育の推進

～教職員・地域・関係機関との連携を通して～

埼玉県川口市立戸塚西中学校 養護教諭 真殿 愛弓

《実践内容》

① 生徒の心身の実態把握

・「保健調査票」の情報は、学校全体で共通理解を図っている。また、来室記録を活用し、個別の指導や健康相談を実施している。

・昨年度は、「睡眠」にテーマを絞り生活習慣を整える指導を全校で行った。生徒それぞれが自分の生活改善の目標を立てたことで、生活習慣が改善された。

② 校内組織との連携

・毎週1回開催している教育相談部会と生徒指導部会は、生徒支援のための具体的な方策を立て対応の実践に結びついている。

・特別支援学級との連携をすることにより、教室への復帰の困難さを軽減するための体制も整えている。

③ 地域との連携

・学区の小学校と地域学校保健委員会を開催したり、保健センターの地域担当と学校が一堂に会し、地域保健連絡協議会を毎年夏休みに開催している。また、校種別地域別のブロックにわかれて研修を行っている。

④ 関係者との連携

・学校三師や教育研究所、保健所との連携もしており、教職員向けの校内研修会での講師として協力して頂いたり、本校生徒についても助言を受けている。

⑤ 健康教育の実践

・「幸せな未来にむけて」をテーマに、学年教職員と連携して性に関する指導を実施し、授業後の生徒の感想からは「自分のことも、相手のことも大切にできるような大人になっていきたいと思う」などの感想があがった。

・学校歯科医と連携し歯科保健指導の実施や授業を学校公開日に行うなど工夫して保護者へも学校の歯科保健活動に理解と協力を得ている。

(2) 講義

■子供たちの心の健康を支える関わりの工夫

跡見学園女子大学 教授 松寄 くみ子

- ・現代の子どもたちの状況は、不定愁訴、慢性疾患、行動の問題、学校の問題、精神科的問題、発達の問題などがあり、現代の子どもたちの環境として、家の中に大人がいない、離婚問題、家族のイライラ、子育ての不安、不適切な養育などの家庭環境、TVやゲーム、インターネットのメディア、勉強がわからない、つまらない、乱暴、厳しい部活等の学校生活、人間関係の希薄等の近隣状況、生活習慣の乱れなど様々な環境に取り巻かれている。
- ・身体症状は、子どもの SOS サインを捉える糸口である。1990 年頃から、子どもの不定愁訴が注目されてるようになり、その出現は増加していると報告されている。
- ・自信や自尊心を高める工夫として、「褒める」「けなさない」「皮肉を言わない」「適切な高すぎない目標設定」「頑張りを見守るまなざし」が大切。
- ・困難を減らす工夫として、簡単、少ない、時間のかからないことから始める。スモールステップ、実現可能性を重視する。とにかく「小さな変化」をまず起こす。
- ・うまくいく支援のヒントとして、支援者自身も含めて「完璧」を目指さない。「知っていること」「できること」の中で工夫しながらも、知識や技術を当事者、支援者ともに磨くことが大切。
- ・話しやすい、否定されない、反応がわかりやすい、うまくいってなくても怒られない、大変なことを言ってもあまりビックリされないことが本当の SOS サインをキャッチできる。
- ・毎日の関わりの中で、あまり難しく考えず「知識」の重点をおきすぎない、素朴で温かい、粘り強い支援を心がけたい。

【課題別研究協議会 第4課題 現代的健康課題】

多様化する現代的健康課題に適切に対応するための保健活動の進め方

(1) 研究発表

■生徒の心身の調和のとれた成長をめざした性に関する指導の実践について

鹿児島県鹿児島市立西紫中学校 養護教諭 藤田倫子

《実践内容》

① 本校における性に関する指導の取組

- ・発達段階に応じた指導の進め方や養護教諭と担任が TT 授業を行いより専門性の高い授業を実施している。
- ・助産師による性に関する指導、「ネットポリス鹿児島」による情報モラル教育講演会、学校薬剤師による保健講話などの外部講師による講話を実施している。

② 保健教育の教科等横断的取組

- ・性に関する指導のポートフォリオ化を行い、3年間を通しての指導の充実を図るようにしている。

③ 個別指導の実施

- ・性に関する様々な問題行動が起こった際は、関係職員がチームで指導・支援を行っている。必要に応じて関係機関につなげる等の対応も行っている。

■健康に関わる意思決定や行動選択を促す保健の学習の工夫

性に関する保健の学習（集団）と個別指導を関連づけた取組を通して

沖縄県立中部農林高等学校 養護教諭 島村 美由紀

《実践内容》

① 個別の保健指導等から捉えた健康課題を集団指導に活かす

・保健室来室時の会話や健康相談及びアンケート調査結果、また、沖縄県は性感染症における人口あたりからの報告数が全国でも上位であることから、特に「性感染症・エイズとその予防」について、ていねいに指導する必要があると考えた。

② 資料提供による保健体育科教諭との連携

・学校の実態や養護教諭の専門性から、保健体育科が行う保健の学習へ養護教諭が資料を提供することとした。養護教諭の強みである、健康に関して生徒の実態を把握しやすいことや専門的な知識・情報を有していることなどを活かして、資料を分かりやすく提示することを心がけた。

・今回、提供した資料は「目には見えない感染源を視覚化する実験」「国内や県内の感染者の統計資料」「症状や科学的な根拠のある予防行動、治療法」等とし授業を行った。

③ 授業後のフォローアップとしての個別指導

・授業後は、保体科教諭の促しにより、授業に関連した疑問や相談などを持って保健室に来る生徒も少なくなかったため、授業の説明を補足し知識の定着を図った。

■「親子で学ぼう命のつながり」による性に関する健康教育

～実践・評価・課題・展開～

宮城県かわむらこどもクリニック 院長 川村和久

・10年前は4年生体育科の授業「育ちゆく体とわたし」を担当とのTTで行うことになり、現在はPTA親子行事と合わせて二部構成として現在に至っている。

・性教育の入り口として「命の大切さを知ること」「体の大切さを知ること」「悲しい出来事を繰り返さないために」をきっかけに、親子のコミュニケーション作りに役立ててもらうことも重要である。

・教師には、指導だけでなく予め掲げた指導目標が子ども一人一人にどの程度実現したのか見極めることに加えて、評価についても意図的、計画的に実施することが求められている。

・保護者の自由記載では、医師以外の職種による命の大切さを伝える教育も必要との意見もあった。そのため成長の時間軸に沿った、他職種を巻き込んだのブースター効果を狙った教育の必要性を痛感している。

(2) 講義

■現代的な健康課題に適切に対応するための学校保健の取組

性に関する指導を視点に

東海大学体育学部体育学科 教授 森良一

・子どもたちが、健康情報や性に関する情報等を正しく選択して適切に行動できるようにすることが課題である。必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行うことができる力を子どもたち一人一人に育むことが強く求められている。

・各学校には、学習指導要領等を踏まえ、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえて、学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編集し、それを実施・評価し改善し

ていくいわゆる「カリキュラム・マネジメント」を実現することが大切となる。

- ・学校における性に関する指導の実施に当たっては、児童生徒の心身の成長発達には個人差があることから、全てを集団指導で教えるのではなく、集団指導で教えるべき内容と個別指導で教えるべき内容を明確にし、それらを関連させて指導することが重要となる。

- ・性に関する指導を推進するには、教育内容と、教育活動に必要な人的・物質資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせたり、学校での取組を家庭・地域と共有したりして、社会に開かれた教育課程の実現を目指すことが求められている。

- ・性に関する実践事例としては、文部科学省から、それぞれの校種について保健教育の手引きが示されている。これらを参考に、児童生徒の実態を踏まえた適切な性に関する指導が実現されることを願っている。

4. 感想

今回、平成30年度全国保健・安全研究大会に参加させて頂き学校の保健・安全面に携わる多くの方々と一緒に研究実践発表や講義を学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

記念講演会では、発育期の運動やスポーツが重要であり、今後は、学校におけるスポーツドクターの顧問制度など、なんらかの形でスポーツドクターと連携することが望まれるということを知ることができました。

第3課題の心の健康では、豊かな人間性と社会性を育み、心の健康の保持増進を目指す教育の進め方について実践発表と講義がありました。各学校の実態や課題に応じて、実践に取り組んでいる様子が見られ、その中でも、子どもたちが自分の心の状態に興味を持てるようにと作られた「心の天気」の掲示物にとっても惹かれました。その案を真似て、すぐに本校でも作成し掲示しました。子どもたちはもちろん教職員も「心の天気」の掲示物を見て、心のサインに気づき自ら「晴れ」にできる人たちが増えると良いなと感じました。

第4課題の現代的健康課題では、多様化する現代的健康課題に適切に対応するための保健活動の進め方について実践発表と講義がありました。各学校の実践発表を聞き、外部講師との連携、集団指導と個別指導両方の重要性を学ぶことができました。今回は、子どもクリニックの院長も実践発表し、学校医として小児科の先生と連携していくことで、小児の病気などを専門的にアプローチしていくことができるので良いなと感じました。また、学校医と担任で授業をTTで行っていること等、専門性のある他職種を巻き込んだ教育をしていることも学びに繋がりました。

今回の全国学校保健・安全研究大会を通して、子どもたちの生きる力を育むために一番の土台となる身体と心の健康教育についての様々な実践を聞くことができました。今後も家庭や地域と連携しながら、養護教諭としての専門知識や技術をますます磨き、生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力や自ら健康で安全な活力ある生活を送ることのできる子どもの育成に努めていきたいです。

資料

- 平成30年度浦添市学校保健会役員及び理事一覧表
- 研究グループローテーション表及び研究大会における運営係について
- 平成30年度研究部会一覧表（名簿）
- 浦添市学校保健功労者（個人・団体）一覧
- 浦添市学校保健研究大会 講演一覧
- 浦添市学校保健会会則



平成30年度 浦添市学校保健会役員及び理事一覧表

	役員	氏名	学校番号	所属	職種	備考
運営委員	会長	金城 聡	3	神森小学校	校長	877-6380
	副会長	荻堂 盛嗣		浦添市PTA連合会	市P連会長	874-3236
	副会長 (三師会代表)	笠原 大吾		学校薬剤師会 (福寿薬局)	薬剤師	963-8930 (事務局) 878-8090 (職)
	副会長	片平 雅明	2	仲西小学校	教頭	877-2067
	副会長	内田 篤		学校教育課	指導主事	876-1234
	医師会代表	山川 美由紀		浦添市医師会 (みゆき小児科)	医師	874-2344 (事務局) 878-5828 (職)
	事務局長	野中 えりな		神森小学校	養護教諭	877-6380
	事務局長補佐	屋富祖南海子		浦添小学校	養護教諭	877-2064
	書記	安慶田 忠		浦添共同調理場	副所長	877-6716
	会計	新里 成美		浦添共同調理場	栄養職員	877-6716
監事	監事	名護 清和	16	浦西中学校	校長	879-3236
	監事	前野 恒宏		浦添市PTA連合会	市P連副会長	874-3236
理事	理事	川畑 剛		南部地区歯科医師会 (上原歯科クリニック)	歯科医師	876-7364 (事務局) 877-1555 (職)
	理事	山川 浩史	1	浦添小学校	教頭	877-2064
	理事	宮國 義人	4	浦城小学校	校長	877-3335
	理事	日高 聡	5	牧港小学校	教頭	877-4142
	理事	吉野 淳	6	当山小学校	校長	877-7595
	理事	徳門 敦子	7	内間小学校	教頭	877-0369
	理事	松岡 泰成	8	港川小学校	校長	879-1974
	理事	平良 その子	9	宮城小学校	教頭	879-5312
	理事	津波 津賀子	10	沢岬小学校	校長	879-3238
	理事	城田 聡	11	前田小学校	教頭	879-1947
	理事	佐久川 譲治	12	浦添中学校	校長	877-2066
	理事	玉城 実	13	仲西中学校	教頭	877-2070
	理事	砂川 恵長	14	神森中学校	校長	877-5165
	理事	野原 綾子	15	港川中学校	教頭	876-1323
	理事	川上 隆		共同調理場	所長	877-1217
	理事	上原 真美		神森中学校	養護教諭	保健部会
	理事	下地 美佳		沢岬小学校	教諭	安全部会
理事	永山 覚		港川小学校	教諭	給食部会	

※ 各学校理事は、年度毎に各学校の校長・教頭が交代である。(方法は、浦添市学校連絡表の上段より1~16までの番号を配し、学校番号の偶数・奇数を用い、平成30年度においては、偶数校は校長、奇数校は教頭が理事である)但し、会長・副会長は理事を兼任する。

※ 監事は、校長会副会長があたる。(保健会会長が小学校の場合は中学校、中学校の場合は小学校の副会長があたる)

研究グループ担当校及び研究大会における運営係について

※研究グループにあたる前年に、研究大会運営に当たる（3年に1回のローテーション）

部会名 (メンバー)	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	研究グループ 担当校 （グループ長 副グループ長 選出）	研究大会 運営係	研究グループ 担当校 （グループ長 副グループ長 選出）	研究大会 運営係	研究グループ 担当校 （グループ長 副グループ長 選出）	研究大会 運営係	研究グループ 担当校 （グループ長 副グループ長 選出）	研究大会 運営係	研究グループ 担当校 （グループ長 副グループ長 選出）	研究大会 運営係
保健部会 (保健主事 養護教諭)	小学校Bグループ	中学校グループ	中学校グループ	小学校Aグループ	小学校Aグループ	小学校Bグループ	小学校Bグループ	中学校グループ	中学校グループ	小学校Aグループ
	浦城小 内間小 港川小 宮城小 前田小	浦添中 仲西中 神森中 港川中 浦西中	浦添中 仲西中 神森中 港川中 浦西中	浦添小 仲西小 神森小 牧港小 当山小 沢岬小	浦添小 仲西小 神森小 牧港小 当山小 沢岬小	浦添小 仲西小 神森小 牧港小 当山小 沢岬小	浦城小 内間小 港川小 宮城小 前田小	浦城小 内間小 港川小 宮城小 前田小	浦添中 仲西中 神森中 港川中 浦西中	浦添中 仲西中 神森中 港川中 浦西中
安全部会 (安全主任)	中学校グループ	小学校Aグループ	小学校Aグループ	小学校Bグループ	小学校Bグループ	中学校グループ	中学校グループ	小学校Aグループ	小学校Aグループ	小学校Bグループ
	浦添中 仲西中 神森中 港川中 浦西中	浦添小 仲西小 神森小 牧港小 当山小 沢岬小	浦添小 仲西小 神森小 牧港小 当山小 沢岬小	浦城小 内間小 港川小 宮城小 前田小	浦城小 内間小 港川小 宮城小 前田小	浦添中 仲西中 神森中 港川中 浦西中	浦添中 仲西中 神森中 港川中 浦西中	浦添中 仲西中 神森中 港川中 浦西中	浦添小 仲西小 神森小 牧港小 当山小 沢岬小	浦添小 仲西小 神森小 牧港小 当山小 沢岬小
給食部会 (給食主任 栄養士)	小学校Aグループ	小学校Bグループ	小学校Bグループ	中学校グループ	中学校グループ	小学校Aグループ	小学校Aグループ	小学校Bグループ	小学校Bグループ	中学校グループ
	浦添小 仲西小 神森小 牧港小 当山小 沢岬小 調理場	浦城小 内間小 港川小 宮城小 前田小 調理場	浦城小 内間小 港川小 宮城小 前田小 調理場	浦添中 仲西中 神森中 港川中 浦西中 調理場	浦添中 仲西中 神森中 港川中 浦西中 調理場	浦添小 仲西小 神森小 牧港小 当山小 沢岬小 調理場	浦添小 仲西小 神森小 牧港小 当山小 沢岬小 調理場	浦添小 仲西小 神森小 牧港小 当山小 沢岬小 調理場	浦城小 内間小 港川小 宮城小 前田小 調理場	浦城小 内間小 港川小 宮城小 前田小 調理場

※平成28年度から、調理場の指定をせず、研究学校に合わせて研究を行う事とした

平成30年度 研究部員一覧表

※◎印が今年度の研究担当校 ○が研究大会における運営係

学校番号	学校名	校長・所長	電 話	FAX	保健部会		安全部会	給食部会	
					養護教諭	保健主事	安全主任	給食主任	栄養教諭・栄養職員
1	浦添小	狩俣 裕	877-2064	870-4755	○屋富祖 南海子	○與座 しのぶ	◎與那覇 瞬	立津 博史	
2	仲西小	島尻 順子	877-2067	877-2810	○崎山 晃代	○親泊 淳子	◎上江洲 秀美	古波蔵 徳子	◎(浦調)崎浜 あづさ
3	神森小	金城 聡	877-6380	877-6423	○野中 えりな	○城間 さやか	◎又吉 さやか	竹下 舞	
4	浦城小	宮國 義人	877-3335	877-3293	饒平名 亜紀		○真喜志 拓	◎小禄 直明	
					坂田 舞				
5	牧港小	飛田 恭宏	877-4142	877-4241	○洲鎌 美智子	○宮里 梨奈	◎玉城 貴子	大城 佳	◎(当調)天久 一樹 ◎(当調)安慶名 恭子
6	当山小	吉野 淳	877-7595	877-7538	○伊敷 美花		◎上間 美由紀	具志堅 葵	◎(浦調)屋部 百音
					○比嘉 涼香				
7	内間小	石川 博基	877-0369	877-0698	渡久地 志保		○松茂良 あゆみ	◎眞喜屋 綾乃	
8	港川小	松岡 泰成	879-1974	879-1975	嘉陽 友美子	水眞 純子	○長浜 綾乃	◎永山 覚	
					伊波 史織				
9	宮城小	多賀 明彦	879-5312	879-5313	長嶺 美香	仲村渠 梨己	○宮城 哉子	◎(大城 茜)許田 麻莉	
10	沢岬小	津波 津賀子	879-3238	879-3256	○宮城 明奈	○前西原 三姫	◎下地 美佳	新垣 友美	
11	前田小	柴 二三夫	879-1947	870-4756	石澤 裕香		○宮平 千寿	◎長川 由美	
12	浦添中	佐久川 譲治	877-2066	877-2808	◎大仲 逸子	◎高橋 梓	嘉手納 圭佑	○新里 朋子	◎(浦調)新里 成美
13	仲西中	神谷 加代子	877-2070	877-2826	◎糸数 貞江	◎新垣 優	上原 敦	○友利 成子	
					◎川平 由樹乃				
14	神森中	砂川 恵長	877-5165	877-5597	◎比嘉 成奈		崎浜 実	○兼次 考枝	
					◎上原 真美				
15	港川中	宮城 靖	876-1323	876-1991	◎多良間 しおり		東川平 貴矢	○安次嶺 景子	
16	浦西中	名護 清和	879-3236	879-8519	◎池原 千賀子	◎親泊 道子	仲村 幸一	○渡久山 大志	
浦添市立学校給食 共同調理場所長		川上 隆	877-6715	874-5745	当山共同調理場	(T) 877-1217 (F) 877-8717	浦添共同調理場	(T)877-6716 (F)874-5745	

浦添市学校保健会功劳者（個人・団体）一覧

学年度	学校医	歯科校医	学校薬剤師	校長	教頭	教諭・主事	養護教諭	共同調理場	PTA
平成17年度	下地 克佳	長嶺 尚子		伊禮 厚子	宮城 政信			東川上 栄恒 (副所長)	比嘉 克政
平成18年度	新川 唯彦				名城 克哉	天久 優子 伊礼 アツ子		伊佐 幸子 吉田 房子	石川 晴美 仲西小学校PTA (団体表彰)
平成19年度	具志堅美由紀	富島 修		並里 勝義 東恩納 吉一 金城 聡 池田 博暁	玉城 甚 川村 和久		宮里 春江	宮良 長成 中本 正憲	荷川取 優
平成20年度	新垣 義清				宮里 貞弘	前村 喜春 宮城 清美 (幼稚園教諭)	嘉数 朝子	玉城 和夫 東浜 卓恵	
浦城小学校 (団体表彰)									
平成21年度	岸本 眞知子 上間 進	福里 英彦 比嘉 洋子		石川 武	高江洲 弘美		下地 京子		大木 陽一郎
平成22年度	健山 幸子 安谷屋 智	川畑 剛				平田輝代美 (幼稚園教諭)	鳩間 優子		
平成23年度	中村 豊一	山内 忠	池間 正	城間 健二		仲盛 康治	花城 陽子 具志堅 綾子	底田 春奈	浜崎 芳久
平成24年度	清水 健			銘苺 健	新城 美高	松田 孝 伊敷 佑子 (幼稚園教諭)	與島 志津江	伊禮 輝	
平成25年度		根間 昌輝						定歳 尚子	池原千佳子
平成26年度	源河 朝博					新城裕美 砂邊 昭利	宜保 久美子		
平成27年度	向井 修一 浦添総合病院 (団体表彰)						金城 輝美		
平成28年度	稲福 徹也 平安病院 (団体表彰)								
平成29年度	赤嶺 弘 同仁病院 (団体表彰)						新本 律子		
平成30年度	比嘉 耕一 とぐち耳鼻咽喉科 (団体表彰)								

※表彰規定一部改正（平成25年1月10日）により、学校保健会運営委員に対しては、功劳者表彰から感謝状授与に変更となった。

浦添市学校保健研究大会

【講演一覧】

回数	開催日	演 題		講 師
10	平成元. 3. 11	シンポジウム	①性教育の進め方	浦添中校医 金城国弘
			②学校経営と子どもの健康	教師 川満トミ子
			③子育てを通して考えること	PTA（父母） 当間明子
11	平成 2. 3. 15	口腔の疾患について		浦添中歯科校医 伊禮兼治
12	平成 3. 2. 28	教師として青少年の非行にどう対処するか。		総合教育研究所 所長 菊池藤吉
13	平成 4. 3. 3	子どもの健康を考える～絵画療法を通して～		平安病院 臨床心理士 金城孝次
14	平成 5. 3. 2	「心が痛い」子どもたちのために		県立那覇病院小児科 臨床心理士 松岡素子
15	平成 6. 3. 4	基本的生活習慣の形成と情緒の安定 ～ 心理学的視点から ～		キリスト教短期大学 教授 渡久地政順
17	平成 8. 3. 7	「いじめ」 ～精神科医の立場から～		城間医院 院長 城間政州
18	平成10. 2. 26	世界制覇への道 ～夢へのステップアップ～		県教育庁保健体育科 佐久本嗣男
19	平成11. 2. 25	浦添市の学校事故の現状と今後の課題		浦添市教育委員会指導部長 島袋栄弘
20	平成12. 2. 24	本県の学校保健の現状と課題 ～学校保健委員会の活性化をめざして～		県教育庁保健体育科 宮城明
21	平成13. 2. 22	薬物乱用防止について		浦添警察署少年課 池原泰子
22	平成14. 2. 28	スポーツと歯		湖城歯科クリニック 院長 湖城秀久
23	平成15. 2. 27	浦添市の子どもたちの心と体の健康づくり ～学校医、小児科の立場から～		たから小児科医院 医師 高良 聡子
24	平成16. 2. 26	いのち育む食教育を求めて		琉球大学名誉教授 農学博士 尚弘子
25	平成17. 2. 17	子どもの心(目的をもち努力する意志)を 育てる教育・子育て		琉球大学教育学部 教授 島袋恒男
26	平成18. 2. 15	幼児・児童・生徒に多い耳鼻科的疾患 ～耳鼻科の立場から～		げんか耳鼻咽喉科院長 源河朝博 〃 看護師長 リージャー理香
27	平成19. 2. 15	子どもの目・眼 ～治療と予防～		新里眼科医院院長 新里研二
28	平成20. 2. 21	学校生活で注意すべきアレルギー患者について		岸本こどもクリニック 院長 岸本真知子
29	平成21. 2. 12	子どもと親のヘルスプロモーション		日本歯科大学生命歯学部衛生学講座・ 同大学院教授 医学博士 八重垣 健
30	平成22. 2. 18	検診で見つけてほしい小児内分泌疾患		ぐしけん小児科 院長 具志堅 美由紀
31	平成23. 2. 17	小っちな行いを大切にしよう		興南学園 野球部監督 理事長 我喜屋 優
32	平成24. 2. 9	薬物乱用防止教育の必要性和 県内の現状について		沖縄県警察本部 生活安全部 警部 池原泰子
33	平成25. 2. 21	基本的生活習慣と たくましく生きる力の育成		伊平屋村教育委員会教育長 東恩納 吉一

回数	開催日	演 題	講 師
34	平成26. 2. 20	私の子育て論 ～読み語りを通して～	高見 知佳
35	平成27. 2. 26	GID 性同一性障がいを知っていますか？	山本クリニック院長 山本 和儀
36	平成28. 1. 28	児童虐待の現状と学校・地域でできること	中央児童相談所 児童福祉司 後野 哲彦
37	平成29. 2. 9	なぜ、少年院で人生が変わるのか	沖縄少年院 法務教官 武藤 杜夫
38	平成30. 2. 1	成長発育期における お口の大切さ	たまき歯科医院 玉城 斉
39	平成31年. 2. 7	自分らしく生きる大切さ ～性同一性障害から学んだこと～	又吉 弥篤

浦添市学校保健会会則

(名称)

第1条 この会は浦添市学校保健会（以下「保健会」という。）と称し、事務局を会長の定めるところに置く。

第2条 保健会は、学校保健・学校安全・学校給食に関する研究を普及及び充実させることをもって、幼児児童生徒の健康保持・増進に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 保健会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 学校保健に関する調査研究及び情報の提供
- (2) 講習会の開催
- (3) 研究資料、会報等の発行
- (4) 学校保健研究大会の開催
- (5) 学校保健功労者・団体の表彰
- (6) 関係団体・機関との連携
- (7) その他保健会の目的達成に必要な事項

(組織)

第4条 保健会は、市内の学校医、学校歯科医、学校薬剤師、学校長、教頭、市PTA連合会、保健主事、安全主任、給食主任、養護教諭及び学校職員及び栄養教諭並びに保健会の目的に賛同する教職員、調理場職員、教育委員会職員等で組織する。

(研究部会)

第5条 保健会に次の研究部会を置く。

- (1) 保健部会
- (2) 安全部会
- (3) 給食部会

2 各研究部会から研究推進員として1名ずつ選出し、研究部会間の連絡・調整に当たる。

(役員)

第6条 保健会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 4名（教育委員会、教頭、市P連会長、三師会で交代・・・各1名）
- (3) 事務局長 1名
- (4) 事務局長補佐 1名
- (5) 書記 1名
- (6) 会計 1名
- (7) 理事 30名以内
- (8) 監事 2名（校長会 副会長、市P連副会長・・・各1名）

(役員の仕事)

第7条 役員の仕事は次のとおりとする。

- (1) 会長は、保健会を代表し、会務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。
- (3) 事務局長は、事務を統括する。
- (4) 事務局長補佐は、事務局長を補佐する。
- (5) 書記は、事務を処理する。
- (6) 会計は、会計を処理する。
- (7) 理事は、企画・運営に当たる。
- (8) 監事は、会計を監査する。

(役員を選出)

第8条 役員を選出は次のとおりとする。

- (1) 会長、副会長及び監事は、理事会で選出し、総会の承認を受けなければならない。
- (2) 事務局長、事務局長補佐、書記及び会計については、会長が任命するものとする。
- (3) 学校関係者理事は、1年交替で校長または教頭が理事にあたる。但し会長、副会長は理事を兼任する。また、三師会から代表でそれぞれ1名選出する。但し、副会長にあたる場合は、兼任する。

第9条 役員任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠役員任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第10条 保健会の会議は、運営委員会、理事会及び総会とする。

(運営委員会)

第11条 会長は、必要に応じて運営委員会を開催し、保健会の運営その他必要な事項を検討・調整することができる。

2 運営委員会の構成は、会長、副会長、事務局長、事務局長補佐、書記、会計、医師会代表とする。

(理事会)

第12条 会長は次の議事を行うため、必要に応じて理事会を招集し、その議長を務めるものとする。

- (1) 事業計画に関する事
- (2) 予算・決算の立案に関する事
- (3) 会則改正の立案に関する事
- (4) 会長、副会長及び監事選出に関する事
- (5) その他保健会の運営に必要な事

(総会)

第13条 会長は、次の議事を行うため毎年6月に総会を招集しなければならない。

- (1) 事業計画に関する事
- (2) 予算・決算に関する事
- (3) 会則改正に関する事
- (4) 会長、副会長及び監事の承認に関する事
- (5) その他必要な事

(会議等)

第14条 理事会及び総会は、構成員の過半数の参加がなければ開くことができない。

2 議事は出席の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長が決する。

(経費)

第15条 保健会の経費は、分担金、雑収入等をもって充てる。

(分担金)

第16条 分担金は、単位PTAの世帯数に50円を乗じた額を基準とする。

(会計年度)

第17条 保健会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(補則)

第18条 この会則に定めるもののほか、保健会の運営に関して必要な事項は、会長が運営委員会に諮って定める。

附則

この会則は、平成16年6月24日から施行する。

この会則は、平成18年6月30日から施行する。

この会則は、平成20年6月12日から施行する。

この会則は、平成22年6月15日から施行する。

この会則は、平成23年6月16日から施行する。

この会則は、平成25年6月13日から施行する。

この会則は、平成26年6月12日から施行する。

第39回 浦添市学校保健研究大会

編集 浦添市学校保健会事務局
浦添市立神森小学校内
〒901-2122 浦添市勢理客1丁目4番1号
TEL 877-6380 FAX 877-6423

印刷 有限会社 潮印刷
〒901-2112 浦添市沢岬1丁目19番2号
TEL 878-5666 FAX 877-2800